

# 官報 號外

大正十一年三月十二日 日曜日

印刷局

第四十五回衆議院議事速記録第二十七號

大正十一年三月十一日(土曜日)午後一時十六分開議

議事日程第二十六號 大正十一年三月十一日  
午後一時開議

- 第一 内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ト南洋群島トノ  
間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法  
律案(政府提出) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉  
臺灣私設鐵道補助法案(政府提出) 第一讀會
- 第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉  
右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉  
信託法案(政府提出) 第一讀會
- 第四 信託業法案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第五 擔保附社債信託法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第六 不動產登記法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第七 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第八 所得稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第九 相續稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十 登錄稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十一 印紙稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十二 日本興業銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十三 臺灣銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

- 第十六 北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)
- 第十七 軍機保護法中改正法律案(安藤正純君外二名提出) 第一讀會
- 第十八 官吏恩給及遺族扶助料増額ニ關スル法律案(前川虎造君外四名提出) 第一讀會
- 第十九 家祿引直處分法案(久下豐忠君外九名提出) 第一讀會
- 第二十 大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案(山口義一君外四名提出)
- 第二十一 僧侶其ノ他諸宗教師ニ被選舉權付與ニ關スル建議案(安藤正純君提出)
- 第二十二 北海道帝國大學ニ法、文、理學部増設ニ關スル建議案(伊藤廣幾君外七名提出)
- 第二十三 北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案(伊藤廣幾君外七名提出)
- 第二十四 北海道地代農地設定ニ關スル建議案(松實喜代太君外七名提出)
- 第二十五 船員ノ選舉權行使ニ關シ選舉法改正ニ關スル建議案(牧野良三君外九名提出)
- 第二十六 平小名濱間鐵道速成ニ關スル建議案(白井博之君外五名提出)
- 第二十七 産業組合ノ振興ニ關スル建議案(土井權大君提出)
- 第二十八 煙草專賣法中改正ニ關スル建議案(樋渡次右衛門君外四名提出)
- 第二十九 火災防止局設置ニ關スル建議案(高見之通君外六名提出)
- 第三十 國庫支辨ニ依ル雇員備員ニ退職手當支給ニ關スル建議案(中村清造君外三名提出)
- 第三十一 花柳病豫防法制定ニ關スル建議案(大林森次郎君外九名提出)
- 第三十二 南千住驛淺草橋間高架鐵道敷設ニ關スル建議案(鈴木隆君外七名提出)

- 第三十三 大崎松田間鐵道速成ニ關スル建議案(森格君外六名提出)
  - 第三十四 木曾川外二川架橋速成ニ關スル建議案(加藤久米四郎君外二名提出)
  - 第三十五 宮河内谷川改修國庫補助ニ關スル建議案(岡順次君外三名提出)
  - 第三十六 市町村立小學校教員加俸令改正ニ關スル建議案(野村勘左衛門君外四名提出)
- 議長(奥繁三郎君) 諸般ノ報告ヲ致シマス  
(原田書記官朗讀)  
一 今十一日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ  
司法事務共助法中改正法律案  
一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ  
郵便法中改正法律案  
提出者 藤井 啓一君 吉田 磯吉君  
          定行 八郎君 出口 直吉君  
農業倉庫業法中改正法律案  
提出者 花城 永渡君 仲田 徳三君  
          麓 純義君 宜保 成晴君  
          石川 善盛君  
          (以上三月十一日提出)  
淀川改修増補工事速成ニ關スル建議案  
提出者 吉川吉郎兵衛君  
鹿兒島加世田間鐵道速成ニ關スル建議案  
提出者 樋渡次右衛門君 久木田 叶君  
          津崎 尚武君 岩切 重雄君  
          (以上三月九日提出)  
一 今十一日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル左ノ議案ヲ可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ  
森林資金特別會計法廢止法律案(政府提出)  
一 議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ  
關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル經濟政策ニ關スル質問主意書

官報號外 大正十一年三月十二日(三月二十五日第三種郵便物認可) 衆議院議事速記録第二十七號 議長ノ報告

提出者 山道 襄一君  
自治行政區域ノ變更ニ關スル政府ノ方針並黨弊ノ自治體破壞ニ關スル質問主意書  
提出者 阿由葉勝作君  
(以上三月九日提出)

一内閣總理大臣ヨリ議長宛去九日左ノ通發令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

大藏技師 矢部規矩雄  
大藏省所管事務政府委員被仰付  
(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

一去九日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ  
狩獵法中改正法律案

松浦五兵衛君 山口 熊野君 鈴木 義隆君  
岩本 平藏君 矢野 丑乙君 佐々木千秀君  
本間 三郎君 富永孝太郎君 矢島 專平君  
銅、眞鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案  
今泉嘉一郎君 河上 哲太君 鈴木 巖君

花岡 次郎君 渡邊 祐策君 古林 與六君  
鈴木久次郎君 小野 重行君 石川長右衛門君  
一去九日銃砲火藥類取締法中改正法律案委員風間八左衛門君、樋口伊之助君、山本条太郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ竹上藤次郎君、赤田瑛一君、阪上貞信君ヲ、辯護士法改正法律案委員廣岡守一郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ熊谷直太君ヲ、農業組合法案外一件委員木下甚三郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ多木久米次郎君ヲ、片町長尾間電力鐵道延長ニ關スル建議案外四件委員八田宗吉君辭任ニ付其ノ補闕トシテ松實喜代太君ヲ、小學校教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案外三件委員岡和知君辭任ニ付其ノ補闕トシテ小野重行君ヲ、食料品配給設備ニ關スル建議案委員淺野順平君辭任ニ付其ノ補闕トシテ田中萬逸君ヲ、大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案委員高橋金治郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ木村清三郎君ヲ、露國政變及西比利亞事變ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案委員梅田潔君辭任ニ付其ノ補闕トシテ一宮房治郎君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

一去九日理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ

工場法中改正法律案委員  
理事 岡本 幹輔君(理事淺賀長兵衛君補闕)  
銃砲火藥類取締法中改正法律案外一件委員  
理事 赤田 瑛一君(理事風間八左衛門君補闕)

一今十一日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ  
狩獵法中改正法律案委員

委員長 松浦五兵衛君 理事 鈴木 義隆君  
銅、眞鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案委員  
委員長 今泉嘉一郎君 理事 花岡 次郎君

一今十一日銅、眞鍮及青銅ノ輸入税ニ關スル法律案委員石川長右衛門君小野重行君辭任ニ付其ノ補闕トシテ富永孝太郎君清水留三郎君ヲ、大湯鐵道及魚沼鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案委員難波作之進君辭任ニ付其ノ補闕トシテ有森新吉君ヲ、狩獵法中改正法律案委員本間三郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ阿由葉勝作君ヲ執レモ議長ニ於テ選定セリ

○議長(與繁三郎君) 會議ヲ開キマス、諮問事項ガアリマス、松島肇君事故ニ依リ本月十三日ヨリ二十二日迄、請暇ノ申出ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナイモノト認メマス、仍テ許可致シマシタ。請願委員長龍野周一郎君ヨリ本日午後一時ヨリ請願委員會ヲ開キタイト云フ申出ガアリマス、是ハ許可致シマシタ  
○龍野周一郎君 請願委員ノ諸君ハ委員會室へ御集ヲ願ヒマス

○議長(與繁三郎君) 日程第一、内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス。川村政府委員

第一 内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案  
内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太南洋群島トノ間ニ於ケル船舶及貨物ノ出入ニ關スル法律案

船及貨物ノ出入ニ關シテハ、關稅法、關稅定率法、噸稅法及輸出貨物ニ關シ内國稅ヲ免除シ又ハ内國稅ニ相當スル金額ヲ下戻シ若ハ交付スルコトヲ定メタル規定ヲ適用セス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行前南洋群島ヨリ輸出シタル貨物ノ輸入ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル  
本法施行前南洋群島ニ輸出シタル貨物ニ對スル税金ノ免除又ハ税金ニ相當スル金額ノ下戻若ハ交付ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

〔政府委員川村竹治君登壇〕  
○政府委員(川村竹治君) 提案ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、南洋群島ト内地、朝鮮、臺灣、樺太トノ間ニ於キマシテハ、從來所謂關稅障壁ガアリマシテ、例ハ内地カラ南洋群島ニ入ル貨物、又南洋群島カラ内地ニ入ル貨物ニ對シテハ、ソレト關稅ヲ課セラレテ居タリデアリマス、然ルニ南洋廳ノ設置ト同時ニ從來ノ制度ヲ改メ、南洋群島ト内地朝鮮等トノ間ニ於ケル貨物及船舶ノ出入ニ關シテハ、關稅法、關稅定率法、噸稅法等ノ法規ヲ適用シナイコト、致シマシテ、右地域間ノ關稅障壁ヲ撤廢致シマシテ、一面ニ於テハ産業ノ發達改良、又一面ニ於テハ帝國ト南洋群島トノ關係ヲ密接ナラシメントシテ、本案ヲ提出シタル次第デアリマス、而シテ南洋群島ニ於キマシテハ、別ニ勅令ヲ以テ南洋群島特殊ノ事情ニ基テ勅令ヲ除クノ外ハ、大體内地ノ關稅法、關稅定率法等ニ依ルト云フコトニ決定ヲ致ス考デアリマス、何卒審議ノ上御協贊アラントラ望ミマス

○議長(與繁三郎君) 日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

選舉

○岩崎勳君 本案ハ政府提出、銅眞鍮及青銅ノ輸入ニ關スル法律案ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス  
〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(與繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議

ノ如ク決シマシタ、日程第三、臺灣私設鐵道補助法案、第一讀會ヲ開キマス

### 第三 臺灣私設鐵道補助法案(政府提出)

第一讀會

#### 臺灣私設鐵道補助法案

第一條 臺灣ニ於テ公衆ノ用ニ供スル爲經營スル私設鐵道ノ每營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ年八分ノ割合ニ達セサルトキハ臺灣總督ハ營業開始ノ日ヨリ十年ヲ限リ其ノ不足額ヲ補給スルコトヲ得但シ補助金ハ鐵道ノ建設費ニ對シ年八分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 補助ヲ爲スヘキ私設鐵道ハ二呎六吋以上ノ軌間ヲ有スルモノニ限ル

第三條 臺灣總督ハ必要アリト認ムルトキハ一經營者ノ經營スル鐵道ヲ數區ニ分チ各區ニ付第一條ノ規定ニ準シ補助ヲ爲スコトヲ得

第四條 第一條及前條ノ規定ニ依ル建設費及益金ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ算出シタル額ニ依ル

第五條 補助金ノ年總額ハ最高八十萬圓トス

第六條 補助金ノ每年度ノ豫算殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第七條 補助ヲ受ケル鐵道ノ管理者カ法令、法令ニ基キテ爲ス命令、許可若ハ補助ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ臺灣總督ハ其ノ補助ヲ停止シ又ハ廢止スルコトヲ得

第八條 詐欺ニ因リテ補助金ヲ受ケタルトキハ法定ノ利息ヲ附シテ之ヲ償還セシム

第九條 前條ノ規定ニ依ル償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモトス

第十條 本法ハ專用鐵道ヲ公衆ノ用ニ供スル鐵道ニ變更シタル私設鐵道及本法施行前營業ヲ開始シタル私設鐵道ニ之ヲ適用セス但シ此等ノ私設鐵道ニシテ交通ノ要路ニ當リ軌間三呎六吋以上ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

#### 附則

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(奧繁三郎君) 田臺灣總督

○政府委員(男爵田健治郎君登壇)

○政府委員(男爵田健治郎君) 本案ノ要旨ヲ説明申上

ゲマス臺灣ノ鐵道ノ現狀ハ、官設鐵道ガ約四百哩許リアリマス、而シテ私設輕便鐵道デ一般公衆ノ運輸ヲ兼業シテ居ルモノガ三百餘哩アルノデゴザイマスガ、是等ハ概ネ製糖會社トシテ自己ノ原料ヲ運搬スル爲ニ拵ヘタ鐵道デアリマシテ、唯一般公衆ノ運輸ヲ兼業シテ居ルニ止マルノデアリマスノデ、是等ニ對シテハ別ニ保護獎勵ノ必要ハ見ナク、デアアリマス、然ルニ最近ニ至リマシテ、一般公衆運輸ヲ目的トスベキ鐵道ヲ企ツル者ガ段々生ジテ參リマシタ、既ニ最近ニ於キマシテハ僅カノ鐵道デアリマスケレドモ、全ク公衆運輸ノ鐵道ガ出來テ居リマス、所ガ今日出來テ居ル許リデナク、將來ヲ見渡シテ見マスト、左様ノ目的デ是非鐵道ヲ拵ヘタイト云フ計畫ガ各所ニ起テ居リマス、所ガ是等ノモノハ臺灣ノ一般交通狀況カラ申シマシテモ、又産業開發ノ上カラ申シマシテモ、是非共成テサセナクテハナリマセス、所ガ是等ハ錢ヲカ政府ノ補助ニ依ルニアラズンバ健全ニ成立チ兼業マス、既ニ内地及朝鮮、樺太等ニ於テモ、私設鐵道ノ補助等モ行ハレテ居ルノデアリマスカラ、是非臺灣ニ於テモ同様ノ法令ヲ施行シテ發達ヲ致サセタイト考ヘルノデアリマス、何卒御審議ノ上御協議ヲラシテ希望致シマス(拍手)

○議長(奧繁三郎君) 日程第四、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○岩崎勳君 委員ノ數ヲ九名トシ、議長ニ於テ指名セラレントヲ望ミマス

○議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ガナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第五乃至十六ハ同一委員ニ付託セラレタル議案ナルニ依リ、一括議題ト爲スニ御異議ハアリマセウカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(奧繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第五、信託法案乃至日程第十六北海道拓殖銀行法中改正法律案ヲ一括シテ其第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——指田義雄君

### 第五 信託法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 信託法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

信託法案委員長 指田 義雄

衆議院議長奧繁三郎殿

### 第六 信託業法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 信託業法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

信託業法案委員長 指田 義雄

衆議院議長奧繁三郎殿 (小字及一ハ委員會修正)

信託業法案中左ノ通修正ス

第四條 信託會社ハ左ニ掲ケル財產以外ノモノノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 金錢
- 二 有價證券
- 三 金錢債權
- 四 動產
- 五 土地及其ノ定著物
- 六 地上權及土地ノ賃借權

第七條 信託會社ハ信託義務ノ違反ニ因リテ受益者ニ生スルコトアルヘキ損害ノ擔保トシテ、資本金ノ十分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ其ノ金額ハ百萬圓ヲ超ユルコトヲ要セス

第十一條 信託會社ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 公債、社債又ハ株式ノ應募引受又ハ買入

二 公債其ノ他前號ニ掲ケル有價證券ヲ質トスル貸付

三 動産ノ買入又ハ動産ヲ擔保トスル貸付

四 不動産ノ買入

三 不動産又ハ法令ニ依リテ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付

六 公共團體又ハ産業組合ニ對スル貸付

七 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金

八 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入

六 前項第三號ニ規定スル動産ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一項第四號ノ規定ニ依ル不動産ノ買入價格ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第七 擔保附社債信託法中改正法律案(政府提出)

府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 擔保附社債信託法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

擔保附社債信託法中改正法律案委員長

指田 義雄

衆議院議長與繁三郎殿

第八 不動産登記法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 不動産登記法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

不動産登記法中改正法律案委員長

指田 義雄

衆議院議長與繁三郎殿

第九 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 非訟事件手續法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

非訟事件手續法中改正法律案委員長

指田 義雄

衆議院議長與繁三郎殿

第十 所得税法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 所得税法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

所得税法中改正法律案委員長

指田 義雄

衆議院議長與繁三郎殿

第十一 相續稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 相續稅法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

相續稅法中改正法律案委員長

指田 義雄

衆議院議長與繁三郎殿

第十二 登録稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 登録稅法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

登録稅法中改正法律案委員長

指田 義雄

衆議院議長與繁三郎殿

第十三 印紙稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 印紙稅法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

印紙稅法中改正法律案委員長

指田 義雄

衆議院議長與繁三郎殿

第十四 日本興業銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 日本興業銀行法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

日本興業銀行法中改正法律案委員長

指田 義雄

衆議院議長與繁三郎殿

第十五 臺灣銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 臺灣銀行法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

臺灣銀行法中改正法律案委員長

指田 義雄

衆議院議長與繁三郎殿

第十六 北海道拓殖銀行法中改正法律案

(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

大正十一年三月九日

北海道拓殖銀行法中改正法律案委員長

指田 義雄

衆議院議長奥繁三郎殿

(指田義雄君登壇)

○指田義雄君 信託法案外十一件ノ委員會ノ願末ヲ御報告申上ゲマス、同一委員ニ付託セラレマシタ案件ハ、信託法外十一件デゴザイマスガ、之ヲ總括致シマスルト五ツニ分レノデアリマス、第一ハ信託ニ關シマス所ノ根本法規ヲ定ムルコト、第二ハ信託ヲ營業ト致シマスル者ニ對シマスル、即チ信託業ニ關スル法規ヲ定ムルコト、第三ハ擔保附社債信託法ト此信託業法トノ關係ヲ定メマス、趣旨デアリマス、第四ハ登記ノ手續並ニ非訟事件手續ニ關スル改正デアリマス、而シテ最後ニ第五ト致シマシテ信託ニ關スル所ノ稅法ヲ定メラレタノデアリマス、即チ其内容ハ所得稅、相續稅、登錄稅、並ニ印紙稅ニ關スル改正デアリマス、信託法ノ要旨ハ信託法ノ第一條ニ其定義ガ掲ゲラレテアルノデアリマシテ、要スルニ本法ニ於テ信託ト稱シマスモノハ、財產權ノ移轉其他ノ處分ニ依リマシテ、他人ヲシテ或ル一定ノ目的ニ從テ之ガ管理處分ヲ爲サシムルト云フコトガ、信託ノ根本義ニナッテ居ルノデアリマス、之ヲ概括シテ申シマスレバ、或ル一定ノ目的ノ爲ニ財產權ヲ他人ニ移轉致シマシテ、其他人ハ信託ノ目的ニ副ヒマス義務ノ附着シテ居ル所有權ヲ得ルト云フコトニナルノデアリマス、而シテ其義務ノ附着致シマシタ所有權ハ、即チ登記登錄ノ方法ニ依ッテ第三者ニ對抗スルコトガ出來ル、或ハ又信託契約ノ義務ニ違反致シマシタ場合ニ、受益者ハ、其條件ノ取消ヲ求ムルコトガ出來ル、又或ル場合ニ於キマシテハ、不特定ナル受益者ノアルトキニハ、其不特定ナル受益者ノ代表者ヲ致シマシテ、信託管理人ヲ定ムルコトガ出來ル、斯様ナ内容ニナッテ居ルノデアリマス、而シテ信託ハ前申シマシタ如ク、人ノ財產ヲ管理

處分スルコトヲ目的トスルノデアリマス、無論受益者ヲ擁護スル上ニ於テ慎重ナル監督ノ必要ガアルノデアアル、大體此信託業法案ニ於キマシテハ、是等ノ監督ニ關スル權利義務ノ關係ガ規定サレテアルノデアリマス、御承知ノ如ク我國ニ於キマシテハ、擔保附社債信託法ノ規定ハアリマス、レドモ、一般ノ信託ニ關シテハ民法上何等ノ法規ヲ存シテ居ラス、隨テ裁判上ニ於キマシテモ種々ナル疑問ヲ生ズルコトナリ、適從スル所ガナク、デゴザイマスガ、一旦此法案ノ基礎ノ規定ガ定マリマスレバ、之ニ依ッテ信託關係ハ明確ニ相成ル次第デアリマス、信託法ノ細キキ内容ノ說明ハ省略致シマシテ、茲ニ議長ノ許可ヲ得マシテ、政府ノ提出セラレマシタ信託法案ノ說明書ガアルノデ、新シキ立法デゴザイマスカラ注文ノ解釋ノ上ニ疑義ヲ存シマスル嫌モナイデモナイト考ヘラレマス、是ハ速記録ニ其全部ヲ添付致シテ參考ニ供シテ置キタイト考ヘルノデアリマス、隨テ私ハ信託法ニ對スル内容ノ說明ハ是デ省略致シマス、而シテ委員會ニ於キマシテハ、此法案ノ全部ニ對シマシテ別段異論ハナク、デゴザイマスガ、唯三十四條ニ於テ、受託者タル法人ガ其任務ニ背キタル場合ニ於キマシテハ、之ニ關與致シマシタ理事者ガ、會社ト連帶ヲ致シテ其責任ヲ負フ、斯様ナ說明ガアッタ之ニ對シマシテハ、或ル免責ノ期間ヲ定メテ居ラヌノデアリマス、即チ責任ヲ解除スベキ期間ガ定メラレナイノデアリマシテ、御承知ノ如ク貯蓄銀行法ナドノ規定ニ依リマスレバ、會社ト連帶ノ責任ヲ負ヒマシタ場合ニ於キマシテモ、其期間ハ二年デ免責時効ニ罹ルコトニナッテ居ルノデアリマス、本案ニ於キマシテハ、特ニ其期間ヲ定メラレナイガ爲ニ、一般商行爲ト見マスレバ矢張五年ノ時効ヲ之ニ適用セラル、コトニ相成ルコトハ、甚ダ其權衡ヲ得ナイト云フ論ガアッタノデアリマス、是ハ委員會並信託業者等ノ方面ニ大分議論ガアッタ問題デアリマスガ、政府當局ノ說明致ス所ニ依リマス、貯蓄銀行法等ニ於ケル二年ヲ以テ責任ヲ免除スルト云フ所ノ規定ハ、全ク其業ノ執行カラ生ズル一種ノ債務關係デアアル、本法ニ所謂連帶責任ハ其理事者ガ、個人ガ受託ノ趣旨ニ背キマシテ、所謂反法ノ行爲ヲシタノデアアル、不法ノ行爲ヲシタノデアアル、不法ノ行爲ニ依ッテ受益者ニ損害ヲ與ヘタ場合ニ於テハ會社ト連帶シテ、而モソレハ重役個人ノ不法行爲デアアルカラ、普通ノ時効ノ規定ニ從フガ當然デアアル、斯ウ云フ說明デゴザイマシテ、委員會ハ此說明ニ満足致シマシテ、全部本案ヲ可決スルコトニ決定致シタ

次デゴザイマス、次ニ信託業法ニ付テ少シク御報告ヲ申上ゲテ置キタイコトガゴザイマス、御承知ノ如ク信託ノ働キハ、一面ハ個人信託トナリ、一面ハ信託ヲ營業トシテ經營致スト云フコトニ分ル、ノデアリマス、而シテ此信託業法ハ信託ヲ商賣トスル上カラ、信託ノ事業ヲ經營スルト云フ者ニ關スル所ノ規定デアアルノデアリマス、而シテ此信託業法ハ御承知ノ如ク、日露戰爭以後我國經濟界ニ信託事業ノ餘程發達ヲ見タノデアリマシテ、政府ノ調査ニ依リマスルト云フト、現在信託ヲ事業トシテ經營ヲ致シテ居リマスルモノガ五百會社位ニ相成ッテ居ルラシ、而シテ其資本總額ハ三億五千萬圓位ノ金額ニ上ッテ居ルサウデアリマス、然ルニ之ニ對シマシテ何等據ルベキ法規ガ存シテ居リマセヌ爲メ、其信託業務ノ内容モ頗ル亂雜ヲ極メテ居リ、統一ヲ致シテ居ラス、ソレガ爲ニ受益者ニ對シマシテハ、折々損害ヲ與ヘルヤウナコトモゴザイマシテ、何トカシテ之ヲ法律ノ上ニ二期ニ規定シテ置キマスル必要ヲ認メタノガ、即チ本案提案ノ理由ニ相成ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ此法案ノ趣旨ハ、前ニ信託法ノ場合ニ於テ申上ゲテ置キマシタ如ク、主トシテ受益者ノ便利ヲ圖リ、受益者ノ利益ヲ擁護スル目的デアリマス、即チ資金運用ニ關シマシテハ、嚴重ナル監督ノ下ニ之ヲ制限ヲ致スコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ御承知ノ如ク日本ノ今日ノ經濟狀態ニ於キマシテハ、一方金融機關ノマダ完全ナル働キヲ致シテ居ラス事情モアルノデアリマシテ、經濟界ハ大ニ企業資金ノ金融ニ困難ヲ致シテ居ル事情モ考慮致サナケレバ、ナラヌノデアリマス、此信託業ガ若シ完全ナル發達ヲ遂ゲマシテ、此金融ノ方面ニ向ヒマシテモ相當ノ働キヲ爲スニ至リマシタナラバ、我國ノ金融機關ノ缺陷ハ之ニ依ッテ補ハルルコトガ出來ルノデアアルト云フ希望モ有シテ居ルノデアリマス、委員會議ニ於キマスル大勢ハ、成ベク信託財產ノ制限モ、又資金運用ノ制限モ相當ニ緩和セラレテ、サウシテ我が經濟界ノ金融機關ノ缺陷ヲ補ヒタイト云フ希望モ、略、滿場ノ意見デアッタノデアリマス、是ニ於テ委員會ニ於キマシテハ種々質問應答ノ後、懇談會等ヲ開キマシテ、而シテ政府ト交渉ヲ重ネマシタ其結果、政府ノ趣旨ノ存スル所モ尊重ヲ致シ、尙ホ他方ニ於

キマシテ我が經濟界ノ要求ヲ致シテ居リマスル所ノ希望モ相當ニ之ヲ認容致スコトニ致シマシテ、遂ニ茲ニ修正案ヲ提出スルコトニ相成テ、デゴザイマス、其修正ノ箇條ハ既ニ印刷ヲ致シマシテ、御手許ニ差上ゲテアルノデゴザイマスルガテ、唯極テ其要旨ヲ茲ニ申述ベテ置キタイト考ヘマス、即チ此修正ノ第一(第四條ノ信託財產ノ中(動產)ト云フ一箇條ヲ加ヘマシテ、動產モ他ノ金錢、有價證券、若クハ不動産等と同様ニ信託財產トシテ之ヲ認メルコトハ、獨リ信託業ノ働キヲ十分ナラシムル許リデナク、決シテ信託業其モノ、本質ニモ反セテイモノアル、故ニ此信託財產ノ中ニ動產ノ一項ヲ加ヘマスルコト、之ト關係ヲ致シマシテ其第十一條ノ資金運用ノ箇條ニ「第三」トシテ「動產ノ買入又ハ動產ヲ擔保トスル貸付」ト云フ一項ヲ加ヘ「第四項」ト致シマシテ「不動産ノ買入」モ之ニ加ヘル事ニ致シマシテ、但シ此動產ノ買入若クハ貸付ニ對シマシテハ、マダ十分ニ信用取引ノ發達ヲ致シテ居リマセヌ我ガ經濟界ニ於テ、徒ニ無制限ニ此動產ノ信託、若クハ動產ニ對スル資金ノ運用ヲ致シマスルコトハ、事業ノ基礎ヲ危クスル虞ガアルト云フ意味ニ於キマシテ、動產ニ對シマシテハ其動產ノ種類ハ豫メ主務大臣ノ認可ヲ必要トスル條件ヲ付ケタノデゴザイマス、而シテ此不動産ニ對シマシテハ、不動産ニ對スル貸付モ附帶業務トシテ出來ル、又資金ノ運用ト致シマシテモ、抵當貸付ヲスルコトノ出來ルコトニ相成テ居ルノデアアルガ、不動産ヲ買入レルト云フコトハ、或ル場合ニ於テハ其價ノ變動ニ因ル所ノ投機思惑ニ陥ル虞ガ有ルノデアアルカラ、其買入スル所ノ金額ハ、相當ニ之ヲ制限スル必要アリト認メマシテ、即チ其買入價格ノ總額ハ、拂込資本金及準備金ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ナイト云フコトノ條件ヲ、修正案ニ附帶致サセマシタ次第アリマス、更ニ此第七條、即チ信託義務ノ範圍ヨリ生ジマス所ノ擔保ト致シマシテ、國債ノ供託ヲ致スベキ金額ガ、資本金ノ十分ノ一以上ニ相成テ居ル、其十分ノ一ナル金額ハ甚ダ多キニ失スル、過重ニ失スルト云フ意味ニ於テ、之ヲ緩和シタイト云フ希望ガ委員間ニテ、タノデアリマス、故ニ之ヲ修正ヲ致シマシテ、命令ノ定ムル所ニ依リテ云フ文字ヲ加ヘタノデアリマス、命令ノ定ムル所ニ依リテ申シマスコトハ、即チ此命令ニ依リマシテ十分ノ一以上ノ供託金ハ適當ニ分納ヲ許ス等ノ方法ニ依リマシテ、之ヲ緩和スル必要アリト認メタ次第アリマス、之ニ對シマシテ政府ノ所見ヲ承ザマシタ所ガ、政府モ全部ニ同意致サ

レマシテ、特ニ第七條ノ供託金分納ノ點ニ關シマシテハ、既設會社ニ於キマシテハ本法ノ附則ニ定メラレアル所ノ期間内ニ、政府ノ認可ヲ受ケマシタナラバ、其許可後先ヅ大體二箇年位ニ分納スルコトヲ許ス見込デアル、又是ト均衡ヲ得セシメマス爲ニ、新設會社ニ對シマシテモ其認可後二年ニ分納ヲ許スト云フ見込デアルト云フ聲明ガアツタノデゴザイマス、是等ノ政府ノ聲明ヲ諒ト致シマシテ、委員會ハ只今申上ゲマシタ數點ニ付テ修正ヲ加ヘマシテ、而シテ本案ハ可決スベキモノト決定致シタノデゴザイマス、其他本案ニ付テハ別段修正ハ致シマセヌケレドモ、委員全體ノ希望ト致シマシテ、將來經濟界ノ發展ニ伴ヒマシテ、資金ノ運用ニ付テ本案ヲ適當ニ改正ヲ致シマシテ、時代ノ要求ニ應ゼラレタイト云フ希望ヲ、殆ド全員ガ有シテ居タノデゴザイマス、故ニ是ハ別段希望條件トシテ決定ハ致シマセヌケレドモ、委員長ヨリ本會議ニ此希望ノ存スル所ヲ申述ベテ置キタイト云フ希望ヲ以テ、本案ハ可決セラレタ譯デアリマス、其他ハ前ニ申上ゲマシタ手續ニ關スル事、並ニ現行法ノ擔保附社債信託等ノ關係ニ付テノ法案デゴザイマシテ、別段茲ニ改メテ御報告ヲ申上ゲル程ノ問題ハ無カタンノデゴザイマス、唯茲ニ申上ゲテ置キタイノハ、信託法制定ニ伴ヒマスル所ノ税法ノ關係デアリマス、即チ其關係スル所ハ所得稅、登錄稅、印紙稅ニ關係ヲ有シテ居ルノデゴザイマスガ、此各法案ノ適用ニ付キマシテ將來疑義ヲ抉ムコトヲ防ギマスガ爲ニ、茲ニ是亦議長ノ認可ヲ得マシテ、政府ガ本案ニ付テノ說明ノ要領書ガアルノデアリマス、是ハ徵稅上幾多ノ立法ノ趣旨ヲ明ニ致シマスガ爲ニ、矢張速記録ニ添付ヲ致シテ置クコトガ必要デアラウト考ヘマスノデ、之ニ依テ御諒解下サランコトヲ希望致シマス、右様ノ次第デゴザイマシテ、即チ本案十二件ハ信託業法中ニ修正ヲ加ヘマシタ、而シテ其他ノ部分ハ全部原案ヲ可決スベキモノト決定致シマシタ次第デゴザイマス、此段御報告ヲ申上ゲマス(拍手)

〔信託法說明並各稅法案說明要領書ハ參照トシテ追テ速記録末尾ニ掲載〕

○議長(奧繁三郎君) 只今委員長ノ報告ノ中日程第六信託業法案ハ委員會ニ於テ修正セラレマシタカラ、先ヅ本案ニ付キマシテ其第二讀會ヲ開クヤ否ヤ御諮リ致シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(奧繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

- 岩崎勳君 直ニ日程第六、即チ信託業法案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長ノ報告通り可決確定アラシト望ミマス
- 議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
- 〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
- 議長(奧繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス
- 信託業法案 第二讀會(確定議)
- 〔異議ナシ〕ノ聲起ル
- 議長(奧繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第六ハ委員長報告通り可決確定致シマシタ、次ニ他ノ十一案ヲ一括シテ第二讀會ヲ開クヤ否ヤ御諮リ致シマス
- 〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
- 議長(奧繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ
- 岩崎勳君 日程第五及第七乃至第十六ノ十一案ヲ一括シテ直ニ其第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長ノ報告通り、可決確定アラシト望ミマス
- 〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
- 議長(奧繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ十一案ヲ一括シテ其第二讀會ヲ開キマス
- 信託法案 第二讀會(確定議)
- 擔保附社債信託法中改正法律案 第二讀會(確定議)
- 不動産登記法中改正法律案 第二讀會(確定議)
- 非訴事件手續法中改正法律案 第二讀會(確定議)
- 所得稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)
- 相續稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)
- 登錄稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)
- 印紙稅法中改正法律案 第二讀會(確定議)
- 日本興業銀行法中改正法律案 第二讀會(確定議)
- 臺灣銀行法中改正法律案 第二讀會(確定議)

北海道拓殖銀行法中改正法律案

第二讀會(確定議)

〔異議ナシ〕異議ナシ(下呼フ者アリ)

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ此十一案ハ委員長報告ノ通り可決確定シマシタ

○岩崎勳君 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ茲ニ政府提出船員職業紹介法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キ、委員長ノ報告ヲ求メ、且ツ其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕異議ナシノ聲起ル

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ日程變更ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更サレマシタ、船員職業紹介法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キ、委員長ノ報告ヲ求メマス

船員職業紹介法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 船員職業紹介法案(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
大正十一年三月十一日  
船員職業紹介法案委員長  
鳩山 一郎

衆議院議長奥繁三郎殿

〔鳩山一郎君登壇〕

○鳩山一郎君 船員職業紹介法案ノ委員會ノ經過ヲ御報告致シマス、我が帝國ニ現在存在スル船員職業紹介所ハ、二百八十有餘アリマシテ、之ニ依ッテ一面努力ノ需給調節ノ目的ハ達シテ居リマシテモ、其職業紹介所ノ大多數、殆下全部ノモノガ營利ヲ目的トスルガ爲ニ、之ニ伴フ弊害ガ又少カラザルモノアルノデアリマス、本法ハ其弊害ヲ除キ且ツ努力ノ需給ノ目的ヲ更ニ圓滿ニ爲サンガ爲ニ立案セラレタルモノデアリマス、即チ政府ヨリ年額約七萬圓ノ補助金ヲ支出致シマシテ、營利ヲ目的トスル職業紹介所ヲ禁止シ、公益ヲ目的トスル法人其他ノ團體ニ其職業紹介ヲ爲サシメントスルモノデアリマス、此趣旨ハ何人ニ於テモ異存ノナイ所デアルノミナラズ、千九百二十年伊太利「ゼノア」ニ開

會セラレマシタ所ノ、第二回萬國國際勞働總會ニ於キマシテモ、此法案ト同趣旨ノモノガ條約案トシテ決定セラレタノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ詳細ニ審議ヲ遂ゲマシテ、第六條ノ船員職業紹介委員會ヲ速ニ設置シテ、本法ノ目的ヲ達スベシトノ意見ヲ以チマシテ、全會一致本院ニ於テモ可決スベキモノト決定致シタ次第デアリマス、右御報告致シマス

〔異議ナシ〕下呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス

〔異議ナシ〕下呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 第二讀會ヲ開クニ御異議ナシト認メマス、仍テ第二讀會ヲ開クニ決シマス

〔贊成〕贊成ノ聲起ル

○議長(奥繁三郎君) 岩崎君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ直ニ本案ノ第二讀會ヲ開キマス

船員職業紹介法案 第二讀會(確定議)

〔異議ナシ〕下呼フ者アリ

○議長(奥繁三郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ委員長報告通り本案ハ可決確定サレマシタ——日程第十七、軍機保護法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、安藤正純君——安藤君ハ出席アリマセヌカ(居リマシタト呼フ者アリ)今居リマセヌ、是ハ後ニ廻シマス——日程第十八、官吏恩給及遺族扶助料増額ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——前川虎造君

第十八 官吏恩給及遺族扶助料増額ニ關スル法律案(前川虎造君外四名)

第一讀會 提出

官吏恩給及遺族扶助料増額ニ關スル法律案

明治四十三年三月三十一日現在ニ於テ軍人恩給以外ノ恩給、退隱料又ハ遺族扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニ限リ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ明治四十三年三月三十一日現在基礎俸給年額ニ二割五分ノ金額ヲ加ヘタル額ヲ以テ大正九年勅令第二百七十八號第一條ノ基礎俸給年額ト爲シ增加算出シタル額トス

附則  
本法ハ大正十一年四月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス

〔前川虎造君登壇〕

○前川虎造君 此法律案ハ極テ簡單デアリマスルガ、弊ガル所ハ非常ニ重大ナ事ニ關係ヲ持テ居ルノデアリマス、唯、一言ニ申シマスレバ、明治四十三年三月三十一日現在ニ於テ軍人恩給以外ノ恩給退隱料又ハ遺族扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニ限リ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ明治四十三年三月三十一日現在基礎俸給年額ニ二割五分ノ金額ヲ加ヘタル額ヲ以テ大正九年勅令第二百七十八號第一條ノ基礎俸給年額ト爲シ增加算出シタル額トス(ト云フ法律ヲ新ニ制定シテ、サウシテ大正十一年ノ四月一日以後カラ之ヲ施行スルト云フ案デアリマス、何故ニ斯様ナ法律ヲ拵ヘル必要ガアルカト申シマスルト、此恩給ハ今日マデ武官ト、ソレカラ文官ノ間ニ非常ナ不權衡ナコトニナッテ居ルノデアリマス、私共ノ提案シタノハ法律案デアリマスルガ、此事ニ付キマシテハ政友會ノ諸君カラ建議案ガ出テ居リマス、ソレデ其趣意ハ同一デアリマス、唯法律案デアルカ、政府ニ建議スルカト云フダケノ違ヒニ過ギナイノデアリマス、是ハ尤ノ事デアリマシテ、別ニ恩給額ヲ上ゲルト云フ譯デモ何デモナイノデアリマス、恩給ハ恩給デアル、併シ武官ト文官ノ間ニ其受タル所ニ等差ガ出来テ居ルト云フコトハ不權衡極マルノデアル、之ヲ同等ニ見ナケレバイカナイト云フコトニ過ギナイノデアリマス、此事ニ付キマシテハ、嘗テ横田法制局長官ハ此席上ニ於テ、恩給ノ不權衡ニナッテ居ルト云フコトハ政府モ認メテ居ルガ故ニ、何レカノ時期ニ於テハ權衡ヲ得セシムルヤウニシナケレバナラヌト云フコトノ御言明ガアッタノデアリマス、デ是ハ一日遅レ、バ一日悲惨ナ事ニ相成ルノデアリマス、明治四十三年三月三十一日以降ニ一般文官ノ俸給ト云フモノヲ非常ニ上ゲテ居リマス、其上ゲテ居ル所ノ俸給率ニ依ッテ、今日退隱料、扶助料、及恩給ヲ文官ガ貫テ居ル、明治四十三年ノ三月三十一日以前ノ役人ノ俸給ト云フモノハ、物價其他ノ關係ニ於キマシテ孰レモ皆今日受クテ居ル所ノ俸給ヨリハ安イ俸給ニ居リマシタノデアリマス、而シテ其俸給カラ割出サレタル所ノ恩給ナリ扶助料ヲ以テ、今日此物價ノ高イ時ニ一家ノ生計ヲ立テ、行カナケレバナラヌト云フヤウナ悲惨ナル非常ナ割合ノ惡イ所ノ境遇ニ立ッテ居ルノデアリマス、一昨年政府ガ之ヲ平均スルニ付テハ六十萬圓位ナ年額増額ヲ要スルコトニナッテ居リマシタ、是ハ國庫ニ於テ、非常ナ苦痛デアルト云フコトヲ頻ニ言ハレマシタ、成程今日多費ノ國庫カラシ

テ六十一萬圓ト云フ金ノ支出ト云フコトハ、或ハ非常ニ困ルカモ知レマセズ、併ナガラ此六十萬圓ノ額ハ餘程減テ居ル、何故減テ居ルカト云フト、三年經テマシレバ此間ニ死亡シテ者モアレバ、又扶助料年限ヲ經過シテ者モ出來テ居ルノデアラフテ是レ以上殖エナイノデアリマス、殖エナイノデアラフテ毎年減ルモノデアリマス、ソレデアラカラス様ナ悲慘ナ境遇ニ居ル所ノ文官ノ家族及恩給生活者、是等ハ安イ給料ヲ資本トシテ割出サレテ、其上ニ平均ヲ來シテ居ルト云フヤウナ、極テ二重ノ不權衡ヲ其儘ニ捨テ置クト云フコトハ、國家トシテハ甚ダ不深切デアルノミナラス、甚ダ殘酷ナヤリ方ト思フノデアリマス(「ヒヤ〜」)政府既ニ之ヲ認メテ、此不權衡ヲ直ホスト云フ所ノ御決心ヲ持テ居ル今日デアリ、又政友會ノ諸君モ政府ニ向テ之ヲ矯メ直シテ貫ヒタイト云フ御建議ヲナサルトマデ御決心ニナテ居ルノデアラカラス、速ニ本案ヲ御賛成下サレマシテ、サウシテ之ヲ貴族院ニ送付シ、貴族院ノ賛成ヲ得テ本年ノ四月一日カラ此不平均ヲ矯メルト云フヤウナコトニシタイト私共ハ考ヘルノデアリマスカラ、願クハ滿場一致御賛成アラントテ希望致シマス

第三條 本法ニ規定ナキモノハ明治三十年法律第五十號ノ規定ヲ適用ス  
〔久下豊忠君登壇〕

○議長(奥繁三郎君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ通り決シマシタ。日程第十九、家祿引直處分法案ノ第一讀會ヲ開キマス、久下豊忠君

○久下豊忠君 本案ハ明治維新ノ當時、舊和歌山藩ノ國家ノ爲ニ拂ヒタル犠牲ニ對シテ、相當ナル救済ヲ與ヘヤウト云フ趣意デアリマス、本案ト同一ナ法律案ハ明治三十三年第十四議會ニ於テモ、本院滿場一致ヲ以テ通過シテアルノデアリマス、之ト同ジ性質ノ法律案デゴザイマスルガ今改メテ政友會ハ勿論、憲政會、國民黨、庚申俱樂部ノ有志諸君ノ御賛同ヲ得テ、茲ニ提出ヲ致シタノデ、簡單ニ提案ノ理由ヲ申上ゲマス、明治維新ノ當時、徳川氏が大政ヲ奉還致シマシタル當時ニ於キマシテ、最モ大ナル問題ハ各藩ガ藩籍ヲ奉還スルコト、士族ヲ如何ニ處分スルカト、此事ガ最モ大ナル問題ト致シマシテ、明治維新當時ノ朝廷ガ非常ニ心配ヲ致シテ居リタノデアリマス、其心配ヲ致シテ居マシタル慶應四年、即チ明治元年ノ十二月二十九日ヲ以テ三條岩倉兩公ハ聖旨ヲ奉ジテ、和歌山藩ニ速ニ改革ヲ致セト云フ内命ヲ下サレタノデアリマス、和歌山藩ハ此聖旨ヲ奉戴致シマシテ、翌々月即チ明治二年ノ二月十五日ヲ以テ、直ニ藩政ノ大改革ヲ行ウタノデアリマス、其改革ヲ行フト同時ニ、郡縣ノ制ヲ布キマシテ、士族ノ祿ヲ苛酷ニ減殺ヲ致シタノデアリマス、此苛酷ニ減殺ヲ致シマシタル此士族ノ祿ヲ以テ資本ト致シマシテ、徵兵制度ヲ布キ、外國ヨリ二百門ノ大砲、一万數千挺ノ小銃ヲ購ヒ、獨逸ヨリ「カッピ」ン下云フ少佐外數名ノ將校ヲ下士ヲ僱聘致シマシテ、所謂獨逸式ノ兵制ヲ實行致シタノデアリマス、即チ我が日本ノ兵制ノ所謂獨逸式ナルモノガ、其開祖ハ和歌山藩デアリマシタ、明治四年ニ各地ニ鎮臺ヲ置カレマシタ時ニモ、此和歌山藩ノ將校下士ハ、各鎮臺ニ分布セラレテ教師ト相成ッタノデアリマス、ノミナラズ明治維新當初ノ陸軍ノ總テノ操典類ハ、悉ク和歌山藩士ノ松見芥次郎氏ノ手ニ依ッテ翻譯サレタト云フ事實ガ、之ガ此當時ノ陸軍ノ兵制ハ何レヨリ來リ、何レヨリ實施セラレタト云フコトヲ明ニ立證致シテ居ルノデアリマス、而シテ此士族ノ減殺致シタ資金ヲ以テ、藩制ノ大改革ヲ行ヒ、縣郡ノ制ヲ布キマシテ、サウシテ徵兵制度ヲ實施致シマシタル其結果ガ、我が陸軍ノ改造ト相成リマシテ、陸軍ガ直ニ此兵制ヲ實施致シタノデアリマス、而シテ此和歌山藩ノ有スル大砲小銃ノ如キハ、明治四年ニ無償ヲ以テ全部陸軍へ上納致シタノデアリマス、然ルニ和歌山藩ノ改革ガ、明治二年二月十五日デアリマシテ、其時ニハ何處ノ藩モマダ改革ヲ致シテ居ラナイノデアリマス、

明治二年ノ六月二十五日ニ至リマシテ、朝廷ハ全國ノ各藩ニ命ジ速ニ適宜ニ改革ヲ致セト云フ、斯ウ云フ、御達ガ下サレタノデアリマス、其七月以來、各藩ハ適宜ナル改革ヲ施シタノデアリマス、此改革ニ於テ士族ノ減殺ヲサレタル其程度ハ、元高ノ二分ノ一、若クハ三分ノ一、酷イノニナリマシテ、五分ノ一位ナ所デ改革ヲ致シタノデアリマス、然ルニ和歌山藩ハ其政府カラ公然改革ヲ致セ、適宜ニ改革ヲ致セト云フ三箇月以前、即チ二月十五日ヲ以テ改革ヲ致シテアリマス、其改革ノ程度ハ士族ノ祿ヲ、平均十分ノ一以上ニ減額ヲ致シタノデアリマス

〔奥議長議長席ヲ退キ粕谷副議長代リ著席〕

極テ苛酷ナル減殺ヲシタノデアリマス、然ルニ各藩ガ改革ヲ致シタガ、旗本ノミハ其年ノ十二月ニ至ルモ改革ヲ致サナイニ付キマシテ、明治二年十二月二日ヲ以テ大政官ヨリ報告ガ出マシタ、旗本土族ノ減殺ヲ實行セシメル爲ニ、所謂祿制ナルモノガ布カレタノデアリマス、此祿制ニ依テ旗本土族ガ處分セラレタノデアリマス、斯様ナ譯デゴザイマシテ、和歌山藩ハ維新改革ノ先驅者トナリ、君國ノ爲ニ大ナル犠牲ヲ拂テ、而シテ士族ハ非常ナル不幸ヲ招イタノデアリマス、此不幸ヲ救済スルコトハ、實ニ國家ノ義務デアラネバナラスノデアリマス、然ルニ此不幸ヲ救済スル爲ニハ、何處ノ減殺ノ標準ニ依ッテ救済シテ宜イカト云フコトニ付キマシテ考ヘマスノ、何レノ藩モ皆區々デアリマシテ、殆ド據ル所ハナイノデアリマス、故ニ最モ苛酷デアル所ノ旗本土族ヲ處分致シマシタル此祿制ニ依リマシテ、即チ明治二年十二月二日ノ大政官報告ニ依リマシテ、旗本土族ヲ處分致シマシタ祿制ニセメテ祿制タケニデモ引直シテ貫ヒタイ、之ガ即チ本案提出ノ理由デゴザイマス、明治維新以來今日ニ至ルマデ、或ハ國賊ノ汚名ヲ蒙ッタ者デモ、或ハ朝敵ノ汚名ヲ蒙ッタ者デモ、事ハ國家ノ爲ニ働イタモノデアル者ハ盡ク救助致サレ、所謂聖恩枯骨ニ及ンデ、ソレノ法律ヲ以テ保護セラレ、扶助セラレテ居ルノデアリマス、然ルニ獨リ此和歌山藩士ノミハ、全國ノ何レノ藩ヨリモ率先ヲ致シテ勤王ノ誠意ヲ擯ンダ爲ニ、此不幸ノ境遇ニ陥ッテ居ルノデアリマス、之ヲ救済スルト云フコトハ、事實ノ上ニ於キマシテモ、道理ノ上カラ考ヘマシテモ、至當ナ事ト確信致シタノデアリマス、故ニ本案ヲ提出シタ譯デゴザイマスガ、尙ホ詳細ハ委員會ニ於テ申上ゲマス、簡單ニ本案提出ノ趣意ヲ陳述致シマス(拍手)

○鈴木錠藏君 本案ハ永屋茂君外二名提出、巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案外六件ノ委員ニ併セテ付託セラレントテ望ミマス

〔贊成〕贊成ノ聲起ル

○鈴木錠藏君 本案ハ永屋茂君外二名提出、巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案外五件ノ委員ニ併セテ付託セラレントテ望ミマス

〔贊成〕贊成ノ聲起ル

○議長(奥繁三郎君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ通り決シマシタ。日程第十九、家祿引直處分法案ノ第一讀會ヲ開キマス、久下豊忠君

第十九 家祿引直處分法案(久下豊忠君外九名提出) 第一讀會

家祿引直處分法案 第一讀會

第一條 明治二年藩政改革ノ爲減殺ヲ受ケタル舊和歌山藩士族中同年十二月二日大政官報告ノ祿制率ヨリ多額ノ減殺ヲ受ケタル者ハ右祿制ノ率ニ引直シ其ノ不足額ヲ明治三十年法律第五十號第一條ニ準據シテ給與ス

第二條 本法ノ給與ヲ受ケムト欲スル者ハ本法施行ノ日ヨリ滿一年以内ニ其ノ理由及證據ヲ具シ地方廳ヲ經由シテ大藏大臣ニ願出ツベシ

○鈴木錠藏君 本案ハ永屋茂君外二名提出、巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案外六件ノ委員ニ併

○鈴木錠藏君 本案ハ永屋茂君外二名提出、巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案外六件ノ委員ニ併

セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ本案ハ動議ノ如ク決シマス

○鈴木宛藏君 議事日程變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ大正九年度豫備金支出ノ件、大正九年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、大正九年度特別會計豫備金支出ノ件、大正九年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件、大正九年度大正三年臨時事件豫備費支出ノ件、承諾ヲ求ムル件右五件ノ委員長ノ報告ヲ求メ、且ツ其審議ヲ進メラシムコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕異議ナシト呼フ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシテ、大正九年度豫備金支出ノ件外四件ノ承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト致シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——松本孫右衛門君

大正九年度豫備金支出ノ件

大正九年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正九年度特別會計豫備金支出ノ件

大正九年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

大正九年度臨時事件豫備費支出ノ件

大正九年度豫備金支出ノ件外四件

〔松本孫右衛門君登壇〕

○松本孫右衛門君 只今議題トナリマシタル大正九年度豫備金支出ノ件外四件ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス、本案ハ憲法六十四條第二項ノ規定ニ依リテ支出サレマシタモノデアリマシテ、所謂事後承諾案デアリマス、其事態ガ重要ナルノミナラズ、其支出金額モ莫大ナモノデアリマスニ般會計ニ屬スルモノトシテハ、第一豫備金六百萬圓、第二豫備金ヨリ八百萬圓、豫算超過及豫算外支出千五十餘萬圓、臨時事件豫備金支出九千八百七十餘萬圓、計一億二千三百餘萬圓デアリマス、又特別會計ニ屬スル分トシテハ、豫備金支出ガ七百三十餘萬圓、豫算超過豫算外支出ガ千六百三十餘萬圓、計二千三百六十餘萬

圓デアリマス、委員會ハ前後五回開會致シマシテ、慎重ニ審議ヲ遂ゲタノデアリマス、隨テ質問應答モ澤山アリマシタガ、就中憲政會ノ高田君、正木君等ヨリ陸軍省ノ馬匹費、青島民政署ノ補助費、農商務省ノ染料會社補助費、外務省ノ國際聯盟參列費ノ機密費、朝鮮總督府特別機密費等ニ對シテ適切ナル御質問ガアリマシタ、併ナガラ結局孰レモ緊急已ムヲ得ザル支出ト認メマシテ、委員會ハ滿場一致ヲ以テ承諾ヲ與フルモノト決シタノデアリマス、此段御報告致シマス

○副議長(粕谷義三君) 本案ニ對シテ質疑ノ通告ガアリマス——高田君登壇

○高田君 豫備金及豫備金外支出ノ事ニ付キマシテ、只今委員長松本君カラ御報告ニナリマシタ、私モ承諾ヲ與フルコトニ御同意ハ致シタノデアリマス、私モ承諾ノ内容ニ付キマシテ甚ダ遺憾ノ點ガ二三アルノデアリマス、故ニ私ハ承諾ヲ與フルト同時ニ、政府ニ向テ注意ヲ致シタイト思フノデアリマス、第一ハ當然豫見シ得ベキモノニモ拘ラズ、豫算ノ編成ヲ誤テ多大ナル豫備金及剩餘金支出等ヲセザルベカラザルニ至ラズモ、陸軍省所管ノ在監人費ニ於テ、豫算額三十六萬圓ニ對シテ、第一豫備金ノ支出ガ三十八萬圓ニ達シテ居ルノデアリマス、是ハ豫算ガ三十六萬圓ノ第一豫備金支出ガ三十八萬圓ト云フガ如キ、甚ダ豫備金ノ支出額多キニ付キマシテ、政府ノ答辯ヲ求メマシタ所ガ、前三箇年ノ平均ニ依リテ豫算ハ作ルカラアル、斯ウニ云フコトデアリマス、尙ホ司法省所管ニ於キマシテ、裁判所ノ旅費及手当ト云フモノガ豫算額ガ三十七萬圓デ、第一豫備金ノ補充額ガ二十四萬圓デアリマス、是モ大正九年六月ノ特別議會ニ於テ當然要求シ得ベキ餘地ノアツク、ニモ拘ラズ、其要求ヲ怠ラノデアリマス、其理由ヲ政府ニ質問致シマシタ所ガ、要求ヲスル積リデアツタガ調査中ニ其時機ヲ失シタト云フヤウナル答辯デアリマシタ、要スルニ斯ノ如ク増加シタノハ何デアルカト云フ、大正九年ノ五月ニ旅費支給規則ヲ改正シタル結果デアアル、故ニ當然豫知シ得ベキ歳出デアツタノニ、特別議會ニ其要求ヲ怠ラタ、斯ウニ云フコトニナルノデアリマス、而シテ何故斯ウニ云フ結果ニナルカト云フト、是等ノ費目ハ第一豫備金ヲ以テ補充シ得ベキ費途ニナラズ、居ルガ爲ニ、唯其當時豫算ノ體面ヲ成ベク少クスルガ爲ニ、全然豫算編成ノ當時ヨリシテ、第一豫備金ヲ當ニシテ、而シテ豫算ヲ編成シタカラ、斯ノ如ク第

〔高田君登壇〕

一豫備金ノ支出ガ多クナ、タノデアリマシテ、若シ斯ノ如キ狀態ヲ持續致シマシタラバドウナルカ、豫備金ハ如何ニ増セドモ、到底國庫剩餘金支出等ノ餘儀ナキ場合ニナリマスノデアリマシテ、若シ政府ガ豫見シ得ベキモノデアツタニモ拘ラズ、斯ノ如ク追加豫算ノ要求、其他豫算ノ編成ヲ誤ラタト云フコトハ、將來ハ大ニ政府ガ注意スベキコトト思フノデアリマス、次ハ當該年度ニ於テ支出スベキモノヲ、豫算ノ編成ノ時機ヲ失シ、調査ノ怠慢ノ爲ニ、翌年度ニ於テ第二豫備金ヲ支出シタト云フコトデアリマス、是モ二三點アルノデアリマス、一ツノ例ヲ申シマスレバ、大正八年ノ五月ニ朝鮮ノ鎮海要港部ノ官舎ノ火災復舊費ノ事デアリマス、是ハ八年ノ五月ニ火災ニ遭タモノデアラカラシテ、相當ノ時間ハアツク、ニモ拘ラズ、之ヲ其年度ニ於テ支出スルノ方法ヲ執ラズシテ、大正九年ノ四月ニ於テ年度ガ變ルヤ否ヤ、第二豫備金ヨリ支出シタノデアリマス、是ハ要スルニ此復舊ノ事業ニ付テ調査ヲ怠リ、當該年度ニ於テ當然支出スベキモノヲ、翌年度ノ豫備金ヲ以テ支出シタト云フノデアリマス、是等ノコトモ斯様ニシテ年度ノ區別ガ付カズ、豫備金ヲ支出スル以上ニハ、豫備金ガ五百萬圓、六百圓、六百圓、到底足リルモノデアリマシテ、餘程此事ニ付テハ政府ノ注意ヲ要スルコト、思フノデアリマス、第三ハ、朝鮮特別會計ノ機密費ノ支出デアリマス、朝鮮特別會計ノ既定豫算ニ於テ、機密費ハ第一第二ト合セテ五十萬圓アル、然レニ大正九年ノ十二月二十三日、特別機密費トシテ百萬圓ノ追加支出ヲシタノデアリマス、其說明ニ依ルト、國外ニ於ケル不逞鮮人ノ計畫ハ屢、國境ヲ脅カシ、又時々鮮内ニ潛入シテ兇暴ノ舉ニ出ゾル者アリ、之ガ裏面ニ於ケル禍根ハ容易ニ芟除シ難キモ、之ガ鎮定、威壓、懷柔等ニ支出スベキ事項少カラズ、而モ緊急措置難キニ依リ之ヲ支出スル、斯ウニ云フ說明デアリマス、併ナガラ大正九年ノ十二月二十三日ト云フハ議會開會ヲ眼前ニ控ヘテ居ル時デアリマスカラ、議會ノ開會ヲ待テ支出スル敢テモ差支ナキニアラズヤトノ意味ヲ以テ質問致シマシタ所ガ、政府ハ如何ニモ事ガ緊急デ差迫ラズ居ラズ、捨置キ難キ故ニ支出シタノデアアル、斯ウニ云フコトデアリマス、併ナガラ機密費ト云フ、政府ガ仕拂ノ月日、或ハ仕拂ノ事實内容等ヲ更ニ議會ニ向テ説明スベキ義務ノナイ費目ヲ、斯ノ如ク多額ノ金ヲ議會ノ開會ヲ待タズシテ之ヲ支出シマシタト云フコトハ、如何ニモ私共不審ニ堪ヘナイノデアリマス、ソコデ私共ハ此一百萬圓ノ機密費ハ十二月二十三日ニ勅裁ヲ經テ支出ニナラズモデアレバ、其支出ハ何日頃始マテ何日頃

一豫備金ノ支出ガ多クナ、タノデアリマシテ、若シ斯ノ如キ狀態ヲ持續致シマシタラバドウナルカ、豫備金ハ如何ニ増セドモ、到底國庫剩餘金支出等ノ餘儀ナキ場合ニナリマスノデアリマシテ、若シ政府ガ豫見シ得ベキモノデアツタニモ拘ラズ、斯ノ如ク追加豫算ノ要求、其他豫算ノ編成ヲ誤ラタト云フコトハ、將來ハ大ニ政府ガ注意スベキコトト思フノデアリマス、次ハ當該年度ニ於テ支出スベキモノヲ、豫算ノ編成ノ時機ヲ失シ、調査ノ怠慢ノ爲ニ、翌年度ニ於テ第二豫備金ヲ支出シタト云フコトデアリマス、是モ二三點アルノデアリマス、一ツノ例ヲ申シマスレバ、大正八年ノ五月ニ朝鮮ノ鎮海要港部ノ官舎ノ火災復舊費ノ事デアリマス、是ハ八年ノ五月ニ火災ニ遭タモノデアラカラシテ、相當ノ時間ハアツク、ニモ拘ラズ、之ヲ其年度ニ於テ支出スルノ方法ヲ執ラズシテ、大正九年ノ四月ニ於テ年度ガ變ルヤ否ヤ、第二豫備金ヨリ支出シタノデアリマス、是ハ要スルニ此復舊ノ事業ニ付テ調査ヲ怠リ、當該年度ニ於テ當然支出スベキモノヲ、翌年度ノ豫備金ヲ以テ支出シタト云フノデアリマス、是等ノコトモ斯様ニシテ年度ノ區別ガ付カズ、豫備金ヲ支出スル以上ニハ、豫備金ガ五百萬圓、六百圓、六百圓、到底足リルモノデアリマシテ、餘程此事ニ付テハ政府ノ注意ヲ要スルコト、思フノデアリマス、第三ハ、朝鮮特別會計ノ機密費ノ支出デアリマス、朝鮮特別會計ノ既定豫算ニ於テ、機密費ハ第一第二ト合セテ五十萬圓アル、然レニ大正九年ノ十二月二十三日、特別機密費トシテ百萬圓ノ追加支出ヲシタノデアリマス、其說明ニ依ルト、國外ニ於ケル不逞鮮人ノ計畫ハ屢、國境ヲ脅カシ、又時々鮮内ニ潛入シテ兇暴ノ舉ニ出ゾル者アリ、之ガ裏面ニ於ケル禍根ハ容易ニ芟除シ難キモ、之ガ鎮定、威壓、懷柔等ニ支出スベキ事項少カラズ、而モ緊急措置難キニ依リ之ヲ支出スル、斯ウニ云フ說明デアリマス、併ナガラ大正九年ノ十二月二十三日ト云フハ議會開會ヲ眼前ニ控ヘテ居ル時デアリマスカラ、議會ノ開會ヲ待テ支出スル敢テモ差支ナキニアラズヤトノ意味ヲ以テ質問致シマシタ所ガ、政府ハ如何ニモ事ガ緊急デ差迫ラズ居ラズ、捨置キ難キ故ニ支出シタノデアアル、斯ウニ云フコトデアリマス、併ナガラ機密費ト云フ、政府ガ仕拂ノ月日、或ハ仕拂ノ事實内容等ヲ更ニ議會ニ向テ説明スベキ義務ノナイ費目ヲ、斯ノ如ク多額ノ金ヲ議會ノ開會ヲ待タズシテ之ヲ支出シマシタト云フコトハ、如何ニモ私共不審ニ堪ヘナイノデアリマス、ソコデ私共ハ此一百萬圓ノ機密費ハ十二月二十三日ニ勅裁ヲ經テ支出ニナラズモデアレバ、其支出ハ何日頃始マテ何日頃

終つたコト云フコト何ヒマシタ所ガ、政府委員ハソレハ分ラナイカラ、朝鮮マデ電報ヲ打ッテ其日ヲ調ベヤツト斯ウ云フ意味デ、其當時ノ御答デハ如何ニモ其任拂ガ數度ニ互ツカカノ如キ御答ガアツタノデゴザイマス、所ガ今日ニ至、テ一昨々日ノ質問ニ對シテ、今日ノ電報ノ結果ナリト稱スル所ニ依ルト、十二月二十三日勅裁ヲ經テ、十二月申中ニ全部支出ヲ終ツタモノデアルト、如何ニモ成程サウ言ヘバ緊急已ムヲ得ザルモノ、如キ御答デゴザイマシタケレドモ、併ナガラ私之ヲ信ジナイノデゴザイマス、最初仕拂ノ月日等ヲ朝鮮ニ電報ヲ以テ照會スルト言ウタ人ハ朝鮮ノ財務局長デアアルサウデゴザイマス、私共ノ考ヘル所デハ、普通ノ常識ヨリ言ヒマシテモ、苟モ財務局長ナル者ガ斯ノ如キ百万圓餘ニ互ル所ノ機密費、此モノヲ仕拂ノ時期ガ若シ勅裁ト殆下同時ニ仕拂ツタモノデアレバ、常識上ヨリ申セバ御記憶ニナラナケレバナラヌ答デアルト思フ、所ガ私ノ質問ノ當時ニハドウモ不明デアアルカラ電報ヲ以テ照會スルト稱シナガラ、今日ニ至、テ全部十二月申中ニ仕拂ツタト云フ事柄ハ、私共常識上ヨリ財務局長ノ答辯ガ如何ニモ曖昧ナルニ驚カ、曖昧ト言フヨリモ寧ろ十二月申中ニ、殆ド勅裁ト同時仕拂ツタトスレバ此事ヲ御記憶ニナラヌ所ノ財務局長ハ、私ハ餘リニ御記憶ノ惡イデアラト思フ、要スルニ仕拂ノ時期ニ付キマシテ、吾等ノ質問ニ對シテ十二月申中ニ仕拂ツタト云フ答辯ハ、若シ一月、二月、三月ニ互ツテ仕拂ツタト云フコトニスレバ、議會開會ヲ待タズシテ支出シタト云フコトガ不穩當ニナルト云フコトヲ恐レル結果、機密費ナルガ故ニ支出ノ月日ヲ議會ニ發表スル必要ガナイガ故ニ、言フ構ヘテ十二月申中ニ仕拂ヒタルモノナリト云フ答辯シタモノト私ハ斷ジテ居ルノデアリマス、私ハ此場合朝鮮ノ特別會計ノコトニ付キマシテ如何ニモ種々ノ要求、放漫ノ支出等ガ此機密費ニ於テアリハセヌカト云フ點ヲ申上ゲテ見タイト思フコトガアルノデゴザイマス、第四十議會、寺内内閣ノ當時ト思ヒマス、豫算總會ニ於キマシテ朝鮮及臺灣ノ特別會計ノ支出ハ甚ダ放漫ニ失シテ居ルカラ、之ヲ整理緊縮スルト云フ條件附テ、大正七年度ノ豫算ヲ決議シタノデゴザイマス、其時ノ附帶決議ヲ見マスト「植民地各政廳ノ豫算ハ放漫ニ失スルモノ少カラズ臺灣朝鮮兩總督府ノ豫算ニ於テ特ニ甚シキモノアリト認ム、政府ハ宜シク適當ノ緊縮整理ヲ爲スベシ」而シテ其說明ノ中ニ豫算ノ總會ノ附帶決議ヲ爲スニ當リテ、豫算第三分科主査ノ吉植君ガ説明シテ居ル、他ノ豫算ハ非常ニ變テ居ル今日ニ於テ、依然トシテ從前ノ如ク多額ノ機密費ヲ要シ居ルト云フガ如キハ、大ニ考慮ヲ拂ハナケレバナラヌト、而

シテ其當時ノ機密費ハ何程デアアルコト云フト、僅カ二十五萬圓デアアル、二十五萬圓ノ機密費ヲ大正七年ノ豫算ノ決定ニ當リテ、政友會ヲ代表シテ吉植君ハ之ヲ考慮シナケレバナラヌト云フテ居ル、而シテ其當時ノ豫算ハ幾ラデアアルコト云フト六千四百八十六萬圓デアアツタ、此機密費ハ大正十一年ニハ何程ニナラ居ルカト云フト五十萬圓ニ達シテ居ル、更ニ大正十一年度ノ總豫算ハ幾ラデアアルコト云フト、朝鮮特別會計ノ豫算ハ一億七千三百圓、殆ド二倍四分ニ達シテ居ル、大正七年度ニ於テ六千四百八十六萬圓ノ豫算ニ對シテ、臺灣、朝鮮兩總督府豫算ニ付テ殊ニ甚シキモノアリト認ム、政府ハ宜シク適當ノ緊縮整理ヲ爲スベシト云フ決議ヲ爲シテ政友會ガ、代テ内閣ヲ組織シタニモ拘ラズ六千四百八十六萬圓ノ殆ド三倍ノ巨額ニナツタト云フトハ、私ハ今ノ内閣ガ其當時ノ決議ヲ裏切ツテ、アベコベニ放漫ナル政策ヲ執ツタノデハナイカト竊ニ憂ヘル者デアリマス（拍手）殊ニ歳入ノ部ヲ覗イテ見マス、大正七年度ニ於キマシテハ經常歳入四千二百六十六萬圓デアリシモノガ、大正十一年度ノ經常歳入ハ、一億五百五十四萬圓ノ多キニ達シテ居ル、殆ド二倍半ニ達シテ居ルノデアリマス、私ハ大正七年ノ僅カ六千四百萬圓許リノトキニ、朝鮮臺灣ノ特別會計ニ於テハ、大ニ整理緊縮ノ餘地ガアルカラ、内閣ハ之ヲ實行スベシト云フコトヲ要求シタル方々ガ内閣ヲ取ツテ、其歳出ガ殆ド二倍四分以上ノ一億五千七百七十二萬圓ニナツタト云フコトニ付テハ、甚ダ遺憾ニ存スル者デゴザイマス、要スルニ是ハ其當時大ニ整理緊縮ヲ爲スベシト稱シタル此決議ノ發案者タル政友會ノ人々ガ、代テ内閣ヲ組織致シマシタケレドモ、更ニ整理節約ドコロデハナイ、緊縮整理モ何モ爲シテナイ、却テ放漫ニ流レテ、其結果經常歳入ガ殆ド二倍五六分ニナツタト云フトハデス、若シ現内閣ガ政友會ノ代表内閣デアレバ、實際斯様ナル結果ヲ生ム筈ハナイノデアルト私ハ思フノデアアル、己ガ野ニ在ルトキハ六千八百萬圓ノ時代ニ整理緊縮ノ餘地ガアル、朝鮮臺灣ノ特別會計ハ甚ダ放漫ナリト言ヒナガラ、己ガ内閣ヲ組織スレバ更ニ之ヲ裏切ツテ、二倍半殆ド三倍近クノ豫算ニシタト云フトハ、確ニ是ハ現内閣ガ大正七年ノ豫算當時ニ於ケル政友會諸君ノ決議ヲ裏切ツテ居ルモノデアラカシテ、政府ハ大正七年當時ノ決議ニ反省シテ、大ニ朝鮮及臺灣其他ノ特別會計ニ付テ、緊縮整理ノ實ヲ舉ゲテ戴キタイト私ハ竊ニ思フノデアリマス、更ニ此豫備金ノ百万圓問題ニ付キマシテモ、其當時二十五萬圓デアリシ豫備金ガ、五十萬圓ニナツテ居ル—イヤ機密費デス、其當時二十五萬圓ノ機密費ガ

五十萬圓ニナツテ居ル、豫備金ハ大正七年度豫備金百五十萬圓ガ、大正十一年度ハ二百五十萬圓ニナツテ居ル、斯ノ如ク機密費モ倍額ニナリ、豫備金モ百万圓モ増加シテ居ルニモ拘ラズ、更ニ特別機密費トシテ、而モ議會開會ヲ眼前ニ控ヘテ、百万圓ノ豫算超過支出ヲ爲スト云フガ如キコトハ、甚ダ穩當ヲ缺クモノト私ハ思フノデゴザイマス、故ニ私ハ是等ノ點ニ付キマシテ、自今政府ノ注意ヲ望ムノデアリマス、他ノ費目ナラバ免三角、議會ニ向テ何等言明ノ責任ノナイ此機密費百万圓、之ヲムザ—支出スルト云フト、之ヲ議會ガ唯認察致シマシタナラバ、甚ダ恐ルベキ結果ヲ國ノ會計ノ上ニ來スコトヲ懼レルノデゴザイマス、ソレモデス、拓殖局長官モ、朝鮮總督ノ長官モ、人格ノ御立派ナ人ナラバ、吾々ハ敢テ申ス必要モナイカモ知レマセヌガ、其當時ノ拓殖局長官ハ例ノ有名ナル古賀康造君デアアル（拍手）而シテ朝鮮總督ハ誰デアアルカ、「シームス」事件ニ依ツテ政治道徳上社會ニ疑感ヲ招イダ一人デアアル（ノウ—）（拍手）此朝鮮總督、此拓殖局長官ガアツテ、而シテ議會ニ殆ド言明ノ責任ナキ百万圓ノ剩餘金支出ヲ爲スト云フ事柄ハ、吾々ハ深ク疑感ヲ懷ク者デゴザイマス（拍手）是等ノ意味ニ於キマシテ、特ニ今後豫備金、及豫備金外ノ支出ニ付テ、政府ノ注意ヲ要求シテ此案ヲ承諾致ス積リデゴザイマス（拍手）

○副議長（粕谷義三君） 高野君

〔高野君登壇〕

○高野君 諸君、本員ハ委員長ノ報告ニ同意ヲ表スル者デアリマス、而シテ只今憲政會ノ高田君ヨリ種々ノ非難ノ點ガアリマシタガ、併シ高田君モ此問題ニ付テハ注意ヲ與ヘマシテ、承認ヲスルト云フ事デアリマスカラシテ、本員ハ此處ニ於テ、其高田君ノ演說ニ對シテ反駁ヲスル必要モアリマセヌト思フノデアリマス、デ此高田君ノ最モ注意サレタ點ヲ一ニ申上ゲタイト思ヒマスガ、第一ニ高田君ガ言ハレタ所ノ豫算編成ヲ誤、テ居ル、此問題ニ付キマシテハ、或ハサウ云フ傾キガアルト云フコトハ當局モ認メテ居ルノデアリマスガ、何分ニモ豫算編成ノ時期ニデス、此火災ノ土地ト非常ニ懸離レテ居リマシタカラ、調査ガ大分暇取リマシテ、遂ニ此追加豫算ヲ出スコトガ出來ナイト云フト當局ハ言ハレテ居ルノデアリマス、併ナガラ之ヲ以テ非常ニ怠慢ト認メルト云フトハ出來ナイノデアリマス、何故カト云フト、是ハ第一高田君ノ認メラレタモノハ、朝鮮ニ於ケル火災ノ復舊費ノコトデアリマスカラシテ、之ヲ以テ非常ニ大ナル怠慢トスルコトハ、私ハ酷ニ失スルト思フノデアリマスガ、第二ニ大正八年五月三、只今ノ朝鮮ノ特別會計ノ機密費ニ最モ力

ヲ入レテヤウデアリマス、此機密費ニ付キマシテハ、國外ノ不  
逞鮮人ノ計畫ト云フモノハ、尙ホ其跡ヲ絶クヌデ、益々國境  
ヲ脅シ、時々鮮内ニ這テ來マシテ、色々宣傳ヲシ、或ハ不穩  
ノ舉動ヲ致シ、種々ノ惡辣ナル最モ憂フベキ事ガアルカラシ  
テ、是ハ緊急已ムヲ得ザルモノトシテ、此百萬圓ヲ支出シタ  
ト云フコトデアリマス、デ吾々モデス、此百萬圓ノ緊急已ムヲ  
得ザルニ出テ支出シタト云フコトハ、或ハ其時期ニ於テモウ  
少シ他ノ方法ヲ執ルコトガ出來ヤウト思ヒマスケレドモ、其  
支出ニ於テ既ニ十二月二十三日ニ裁可ヲ得マシテ、當局  
ハ十二月二十三日ニ全部支辨シタト云フコトデアリマス、其手  
續ヲ致シマシテ、サウシテ當局ニ此裁可ヲ得ルト云フコトニ  
ナリマスカラシテ豫算ニ合フト云フコトハ出來ナイノデ  
アリマス、即チ時日ガ無イノデアリマス、故ニ此當局ガ是ダケ  
手段ヲシタト云フモノハ、吾々ハ適當ナ處置ト信ズルノデア  
リマス、尙ホ此高田君ノ言ハレタ大隈内閣ノ時代ニ即チ非常  
ニ豫算ヲ緊縮スルト云フ建議案ヲ政友會ハ(大隈内閣ニ  
アラズ寺内内閣ノ時ダト呼フ者アリ)寺内内閣ノ時ニサウ  
云フ事ヲシマシテ、然ルニ其政友會ガ内閣ヲ取ツ時分ニハ、  
今日ノ内閣ハドウデアアルカト云フト、殆ド二倍半カラ三倍  
ノ經費ヲ出シテ之ヲスルト云フコトハ、高田君ハ少シ其時  
代ヲ解スルコトガ甚ダ遠イコト、私ハ思フノデアリマス、何  
故ナラバ寺内内閣ノ時代ハマダ歐洲大戰ノ時代ニ移ラヌ  
時デアリマスカラ、(笑聲)「ドウシタト呼フ者アリ」イヤサウ  
デハナイ——寺内内閣ノトキニハ、其時代ニハ移リマシタケ  
レドモ、此財界ノ膨脹ガ今日迄ニ至ラヌコトデアッタノデスカ  
ラ、斯ノ如キコト、思フノデスケレドモ、併シ此モノニ對シテ  
ハ、ソレダケノ設備ガ——所謂整備ガ付イテ來タノデアリマ  
スカラ、之ヲ以テ甚ダ豫算ガ膨脹シテ、我黨内閣即チ政友  
會内閣ガサウ云フ條件ヲ附ケテ決議シタモノ拘ラズ、今日  
斯ノ如キ膨脹ヲスルト云フコトハ、ソレヲ裏切ツタト云フコト  
ニ之ヲ當嵌メルト云フコトハ、少シク酷ダト私ハ信ズルノデ  
アリマスカラ、聊カ之ヲ以テ一言致シテ置キマスガ、諸君ハド  
ウカ十分ノ御審議ヲ經テ贊成アラント望ミマス(拍手)  
○副議長(粕谷義三君) 他ニ通告モアリマセヌカラ、討論  
ハ終結サレマシタ

○鈴木錠藏君 本案ハ委員長報告ノ通り承諾ヲ真ラレ  
ンコトヲ望ミマス  
○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ナ  
シ(異議ナシト呼フ者アリ)  
○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ナ  
シ

ト認メマス、仍テ大正九年度豫備金支出ノ件外四件ハ、承  
諾ヲ與フルコトニ決シマシタ——次ハ日程第二十、大阪和  
歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス

### 第二十 大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル 建議案(山口義一君外四名提出)

大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案

大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案  
大阪和歌山間ニ於テハ旅客ノ數荷物ノ量實ニ夥シク到  
底現在ノ一線ヲ以テシテハ交通機關タルノ職責ヲ盡ス  
能ハス加フルニ大正十八年紀勢鐵道完成ノ曉ハ更ニ和  
歌山地方ニ旅客集まり荷物輻輳スヘシ故ニ紀勢鐵道ハ  
大阪和歌山間ノ鐵道完成シテ益ニ初メテ交通機關タル  
ノ機能ヲ現スヲ得ヘシ之ヲ以テ元田鐵道大臣ハ既ニ此  
ノ鐵道ノ必要ナルコトヲ聲明セラレ、昨年第四十四回議  
會ニ於テモ本建議ハ大多數ノ贊成ヲ得テ通過セリ依テ  
政府ハ速ニ本鐵道ヲ敷設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

○山口義一君 簡單デゴザイマスカラ、此席ヨリ中上ダ  
イト思ヒマス、是ハ大阪ヨリ發シマシテ、堺市ヲ通り、和歌山  
縣ニ至ル鐵道ヲ敷設シテ貫ヒタイト云フノデアリマス、既ニ  
昨年第四十四議會ニ於キマシテ、本議會ニ於キマシテ大多  
數ヲ以テ通過致シテ居ルノデアリマス、詳細ハ委員會ニ於  
テ御説明ヲ申上ゲマスカラ、本年モ何卒御贊成アラント  
ヲ望ミマス(拍手)

○鈴木錠藏君 本案ハ植場平君外一名提出、片町長尾  
間電力鐵道延長ニ關スル建議案外十二件ノ委員ニ併セ  
テ付託セラレント望ミマス  
〔贊成〕贊成ノ聲起ル  
○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ナ  
シト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第二十一、  
僧侶其ノ他諸宗教師ニ被選舉權付與ニ關スル建議案ヲ  
議題ト致シマス、安藤正純君

### 第二十一 僧侶其ノ他諸宗教師ニ被選舉權 付與ニ關スル建議案(安藤正 純君提出)

僧侶其ノ他諸宗教師ニ被選舉權付與ニ關スル建議  
案

僧侶其ノ他諸宗教師ニ被選舉權付與ニ關スル建  
議

僧侶其ノ他諸宗教師ハ國法上他ノ國民ト等シク國家  
ノ各種ノ義務ヲ負擔スルニモ拘ラス一般國民ノ享有シ  
ツアル各種ノ被選舉權ヲ付與セラレザルハ立憲治下ニ  
於テ遺憾トスルトコロナリ故ニ現行制度ヲ改正シテ貴族  
院衆議院並府縣郡市町村會ニ於ケル總テノ議員被選  
舉權ヲ僧侶其ノ他諸宗教師ニ付與スヘク政府ハ速ニ適  
當ノ方法ヲ講スヘシ  
右建議ス

### 〔安藤正純君登壇〕

○安藤正純君 是ハ昨年モ提出致シマシタ建議案デゴザ  
イマスガ、成ベク簡單ニ其趣意ヲ説明致シマス、今日選舉  
權ハ十五圓ガ十圓トナリ、十圓ガ三圓トナッテ、段々擴張シ  
テ參リマシタ、而シテ又今ヤ是等ノ制限ヲ撤廢致シマシテ、  
益々其權利ヲ擴張セントスル時代ニ迫々至ツタノデゴザイマ  
ス、然ルニ選舉法第十三條ニ於キマシテハ、神官、神職、僧  
侶、其他諸宗教師、並小學校教員、是ダケニハ被選舉權ヲ  
奪テ居リマス、今日マデ之ガ未ダ改正セラレナイ次第デア  
リマス、成程選舉法ノ制定當時ニ於キマシテハ、其必要モ  
アツカトモ思ヒマス、今日ハ時代モ變化ヲ致シマシテ、  
隨テ此時代ノ精神ニ照セバ、今日之ヲ制限シテ置ク所ノ必  
要ハナカラウト認メルノデゴザイマス、小學校教育ト云フモ  
ノハ、言フマデモナク國民生活ノ基礎知識ヲ與ヘルモノデア  
ルト共ニ宗教ト云フモノハ又人生ノ實生活ニ接著シテ、社  
會ヲ感化シ、思想ヲ善導シテ、初テ有益ナルモノトナル  
ノデアリマシテ、人生ノ實生活ヲ離レテハ、何等ノ價值ノナ  
イモノトナルデアラウト思フ、而シテ今日ノ國民ノ現實生活ト  
申シマスルモノハ、法律政治ニ依ツテ支配セラレテ居ルノデア  
リマスカラ、此點カラ考ヘマスルト、國民生活ノ基礎知識  
ヲ與ヘル所ノ教育家、人生ノ實生活ニ接著シテ社會ヲ指  
導スル所ノ宗教家、是等ガ全ク政治ト云フモノト隔離サ  
レテ、サウシテ國民ヲ教育シ、感化シ、指導シテ行クト云フコ  
トハ、全ク無意識デアッテ、空虚ナルモノニナツテ來ヤシナイカ  
ト云フノデアリマス、デアアルカラシテ、此大切ナル教育家トカ、  
宗教家ト云フモノガ、或ハ時勢ニ迂遠デアアル、現實ニ迂迴デ  
アレト云フ所ノ譏ヲ往々ニシテ聞クノデアリマス、勿論是ハ  
教育家、宗教家ノ彼等自身ノ罪デモアリマセウガ、又一  
面カラ考ヘテ見ルト、主トシテ國家ノ方針トシテ、今日マデ  
之ヲ政治圈外ニ放逐シテ置イタ所ノ罪デハナカラウカト思

フノデアリマス、更ニ考ヘテ見マスルト、教育家、宗教家ト云フモノハ、全國ニ頗ル多數ヲ有シテ居リマス、而シテ其知識、能力、品位、是等ニ於テ、此階級ト云フモノガ一番平均ヲシテ居ル所ノ階級デアリマス、デアリマスカラ、斯ウ云フ平均トハ、國家ノ政治トシテハ最モ不利デアラウト思フ、唯茲ニ一ツノ問題ハ、政治ト宗教トガ混同スル、宗教家ニ被選舉權ヲ與ヘレバ、茲ニ政教混同ト云フコトガ起ルト云フ非難ガアルノデアリマスルガ、是ハ歐羅巴中世ノ歴史ヲ夢ミテ居ルコトデアラウト思フ、歐羅巴中世ニ於キマシテハ、甚シキニ至テハ、獨逸皇帝「ヘンリー」四世ヲシテ、嚴冬積雪ノ裡ニ三日三晩モ法王城ノ門ニ立續ケニ立タシテ置イテ、漸ク羅馬法王ガ面ヲ謝罪ヲセシメテ、之ヲ許シタト云フヤウナ例モアリマス、即チ羅馬法王「グレゴリー」七世ト云フヤウナ暴虐ヲヤクタルモアル、又獨逸皇帝「フレデリック」二世ヲシテ法王ノ階段ノ下ニ、帝冠ヲ脱シテ平伏セシメテ、而モ法王自ラ尼ヲ舉ゲテ帝王ノ頭ニ加ヘタト云フヤウナ暴虐ナル「アレキサンダー」三世ト云フヤウナ羅馬法王トモアル、併シ是ハ歐羅巴中世ノ事蹟デアリマシテ、我國今日迄ノ政教關係ニ於キマシテハ、サウニ云フ事ハナイノデアリマス、要スルニ西洋ニ於テハ、國家ト宗教ト云フモノトノ争ヒデアルガ、我が日本ニ於キマシテハ、國家ニ於ケル所ノ政治家ノ權門家ト、宗教家トノ争ヒデアラ、ソレニ過ギナイノデアリマス、其他今日迄我國ノ政教關係ヲ調ベテ見マスルト、我國ノ宗教、殊ニ佛教ハ、我國ノ文化ヲ指導シテ、我國ノ國民精神ヲ涵養シテ居ルト云フコトハ、歴史上明ナル事實デアリマス、殊ニ今日ノ時代ニナツテハ、之ヲ圖外ニ斥ケルト云フコトハ、全ク何等ノ必要ガナイト云フコトヲ思フ次第デアリマスカラ、此建議案ヲ提出致シタノデアリマスルガ、最後ニ一言申上ダテ置キタイノハ、小學校教員及神官ハ同ジ條項ノ下ニ限定サレテ居リマスルケレドモ、是ハ或ハ國庫ノ補助ヲ受ケテ居ルト云フヤウナコトモアル、單リ僧侶ハ今日ハ國家カラ何等ノ保護ヲ受ケラ、私ハ教育家、宗教家ニ於テ被選舉權ヲ一様ニ與ヘテ裁キタイノデアリマスルガ、其中ニモ僧侶ト云フモノハ、何等國庫ノ補助關係ト云フヤウナモノガナイノデアアルカラ、理論上カラ言ヘバ、先ヅ之ガ最モ先ニナルベキモノデアナイカト思フノデアリマス、殊ニ先日ノ府縣制改正案ニ於キマシテ、内務大臣ハ主義ニ於テハ是ハ賛成デアルト云フコトヲ既ニ言明セラレテ居ルノデアリマシテ、先日ノ本會議ニ於キマシテ、私ガ此處デ質問ヲ致シマシタト云フモノ、政府委員ハ明ニ之ヲ言明セラレテ居ルノデアリマスルカラ、ドウカ此場合速ニ適當ナル法案ヲ政府ガ提出致シマシテ、神官、神職、

僧侶、其他諸宗教師、並ニ小學校教員、殊ニ此僧侶ノ階級ニ對シマシテ速ニ、被選舉權ヲ與ヘラレンコトヲ茲ニ皆サシノ御審議ニ附シテ、希望スル次第デアリマス、私ノ建議案提出ノ理由ハ斯ノ如キモノデアリマス(拍手)

○鈴木錠藏君 本案ハ安達謙藏君外...

○副議長(粕谷義三君) 御待チ下サイ、通告ガアリマス、田中善立君

(田中善立君登壇)

○田中善立君 本員ハ此建議案賛成ノ趣旨ニ付テ其要點ヲ申述ベラス、人ノ此世ニ處スルヤ、事大小トナク其目的ヲ達成スルノニハ、何等カノ信念ニ依ラネバナラヌノデアアル、就中最モ權威アル信念ハ、申スマデモ宗教的信念デアリマス、古今東西立憲傳中人ノ履歷ヲ見マスレバ其事ハ明カデアリマシテ、一私人ガ事ヲ爲スニ當テモ然リデアリマスルガ、況ヤ公人ガ國家ノ大事ヲ爲サントスルニ當リマシテハ、ドウシテモ此信念ニ依ラナケレバ、其目的ヲ達成スルト云フコトハ不可能デアル、其故ニ古今東西知名ノ政治家ハ必ヤ何等カノ宗教信念ニ依テ居ル事ハ明白ナル事實デアリマス、歐米ノ知名ノ現代ノ政治家ノ如キモ、何レモ皆常ニ之ヲ告白シテ居リマス、我國ニ於キマシテモ、古ヨリ偉人傑士ハ何レモ皆宗教中最モ優レタル佛教ノ信念ニ依テ居ルコトハ、其事實ガ如キ物語ヲ居リマス、最モ顯著ナル人ハ彼ノ時頼時宗ノ如キ、楠公ノ如キ、何レモ皆熱心ナル佛教禪宗ノ信者デアッタノデアリマス、又豐太閤ノ如キ、徳川家康ノ如キモ齊シク佛教ノ信者デアッタノデアリマス、故ニ此信念ナクシテ國家ノ事ヲ爲サントシマスレバ、偉人傑士ト雖モ能ク其目的ヲ果スコトハ困難デアル、況ヤ平凡ナル政治家ニ於テ、假令輔弼ノ大任ニ當ルト雖モ、此信念ナクシテハ到底能ク國家ノ大事ヲ達成スルコトハ出來ヌノデアリマス、唯目前ノコトヲ見テ事ヲ爲スノデアリマスルカラシテ、必ヤ其事ヲ破壞スルニ至ルノデアアル、邇テ千三百餘年前ノ我國ノ歴史ヲ御審議ニナリマスレバ能ク分ラウト思フ、當時我が帝國ノ中央ニ於キマシテ、國族政治ガ行ハレ、蘇我、物部、稻目ノ如キハ政權ヲ私シ、地方ニ於テハ國司國造ガ地方ノ政治ヲ私シテ居ル爲ニ、我が建國ノ本旨タル所ノ立憲ノ趣旨ト云フモノハ、全ク之ニ依テ蔽ハレ、道義廢頽シ、法規紊亂ノ極ニ達シテ居ッタノデアリマス、此所ニ出ラレシ偉人ハ即チ聖德太子、聖德太子ハ自ら進シテ佛教ヲ研究シテ、之ニ依テ十七憲法ヲ制定シ、初テ其時代ノ暗黒世界ガ救ハレタヤウナ次第デアリマス、故ニ其後我國ノ文化ノ基礎ト云フモノハ、總テ此佛教ニ在ルノデアアル、今日詠曲、淨瑠璃ヲ御覽ニナツテモ分リマスガ、我が美術、文學ハ佛教ヲ離レ

殆ド其形ヲ成サスト云フヤウナ有様ニナツテ居ルノデアアル、總テ風俗、人情、思想ノ基礎ト云フモノハ、皆佛教ニ在ルノデアリマス、然ルニ之ヲ思ハズシテ、維新當時ニハ排佛毀釋ヲ行ヒマシタ爲ニ、爾來西洋文化ハ這入、テ參リマシタケレドモ、西洋ニ於テモ其基礎ヲ爲シテ居ル所ノ宗教ト云フモノハ、度外視シテ、我國千數百年來諸般ノ基礎ヲ爲シテ居リマス所ノ佛教ト云フモノハ、度外視シタガ故ニ、今日ドウナテ居リマスカ、立憲ノ形ハ漸ク備ハツテ居リマスケレドモ、今日其實ノ舉ラヌト云フ病原亦此ニ在ルト私ハ思フノデアリマス、此故ニ尤モ是ハ改メントスルニ付テハ、餅屋ハ餅屋デアリマス、矢張斯ウ云フ問題ニ付テハ宗教家ヲシテ佛僧侶等ヲシテ自由ニ國政ニ參與セシメ、之ヲ論議セシムルト云フコトニスルニアラズンバ、門外漢ノ人が多ク集テ之ヲ論議セントシテモ、到底十分ニ其目的ヲ果スコトハ出來ヌト思フノデアリマスカラ、後レタリト雖モ、速ニ此問題ハ政友會諸君モ御賛成ヲシテ、適當ナル案ヲ立テラレンコトヲ偏ニ希望スル次第デアリマス

○鈴木錠藏君 本案ハ安達謙藏君外九名提出、市制中改正法律案外三件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ハナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十二、第二十三ハ提出者同一デアリマスカラ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(粕谷義三君) 御異議ナイト認メマス、即チ日程第二十二、北海道帝國大學ニ法、文、理、學部増設ニ關スル建議案、日程第二十三、北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案、右二案ヲ一括シテ議題ト致シマス、提出者ノ辯明ヲ求メマス、伊藤廣幾君

第二十二 北海道帝國大學ニ法、文、理、學部増設ニ關スル建議案(伊藤廣幾君外七名提出)

北海道帝國大學ニ法、文、理、學部増設ニ關スル建議案

北海道帝國大學ニ法、文、理、學部増設ニ關スル建議案

北海道帝國大學ニ法、文、理、學部増設ニ關スル建議案

北海道帝國大學ニ法、文、理、學部増設ニ關スル建議案

北海道帝國大學ニ法、文、理、學部増設ニ關スル建議案

第二十三 北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案(伊藤廣幾君外七名提出)

北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案  
北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案

北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案  
北海道ニ高等學校新設ニ關スル建議案  
望ム  
右建議ス

〔伊藤廣幾君登壇〕

○伊藤廣幾君 本案提出ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、北海道ノ拓殖ハ我國ノ國是ニシテ、維新以來之ガ開發ノ爲ニ、國家ハ施設經營ニ努メテ來タノデゴザイマス、而シテ拓殖ヲ完成シマスルニハ、之ガ適當ナル人材ヲ養成ヲスルト云フコトハ、最モ緊要ナルコト、認メラレマシテ、時ノ政府ハ明治九年ニ亞米利加合衆國ノ「マサチウセツ」農科大學ノ例ニ倣ヒマシテ、北海道ニ札幌農學校ヲ設立致シテ、斯業ノ高等教育ヲ施サレタノデアリマス、明治四十年ニ至リマシテ、東北帝國大學ヲ仙臺市ニ設置セラル、ニ際シテ、札幌農學校ヲ其一分科ニ改メラレテ、農科大學ト改稱セラレタノデアリマス、大正七年ニ農科大學ニ更ニ醫學部及工學部ヲ加ヘテ綜合大學ノ形ヲ成シテ、茲ニ北海道帝國大學ト云フモノヲ設立シタ次第デアリマス、然ルニ拓殖ノ進捗ニ伴ヒ、人口ノ増加ニ隨ヒマシテ、物質以外ニ文化ノ發展ヲ要スルコトハ痛切ニ感ズルニ至ラタノデアリマス、之ガ爲ニ技術ノ才能ヲ有スル人材ヲ要スル同時ニ、法、文ニ關スル知識ヲ備フルノ人材ヲ造ルコトハ、最モ痛切ニ感ズル次第デアリマス、殊ニ北海道ノ如キ植民地ニ於キマシテハ、其國民ノ思想ヲ善導シ、或ハ國家ノ觀念ヲ養成スル上ニ於キマシテ是等ノ人材ヲ必要トスルト云フコトハ、言フ俟タナイノデアリマス、殊ニ北海道ハ大陸的自然ノ風致ヲ具ヘマシテ、四圍ノ事情ハ最モ此種ノ人材ヲ養成スルニ適當ノ地デアリノデアリマス、故ニ北海道帝國大學ニ法、文ニ關スル學部ヲ設置セラレマシテ、北方ノ開拓ヲ完成セラレンコトヲ望ム所以デアリノデアリマス、而シテ此理學部ヲ設置シマスル必要ハ、現ニ北海道帝國大學ニ於キマシテハ、農、醫、工ノ三學部ガアルノデアリマス、是等ハ何レモ應用ノ學科デゴザイマシテ、是等ノ進歩發達ヲ圖ル上ニ於キマシテハ、是非共基礎學科タル所ノ理化學ノ研鑽ニ待タザルヲ得ナイト云フコトハ言フ俟タナイノデアリマス、若シ此基礎學科ヲ怠ルヤウ

ナコトガゴザイマシタナラバ、大學ノ研究ト云フモノハ自ら薄弱ニシテ、其成果ヲ十分ニ學ゲルコトノ能ハザルト云フコトハ是亦言フ俟タナイノデアリマス、此故ニ北海道帝國大學ニ理學部ヲ設置シマシテ、基礎學科ノ研究ヲ益、進メ、應用學科ノ進歩ヲ圖リ、以テ學術界ノ進運ニ資スルコトヲ要スルコトガ、今日ニ於テ最モ大切ト信ズル次第デアリマス、之ヲ要スルニ北海道ハ北方開發ノ中心地ニシテ、樺太、薩哈連、沿海州等ニ至ルマデ、我國ノ文化ノ發展ヲ圖リマス上ニ於テハ、文化ノ中心タル北海道帝國大學ノ活動ニ待タナケレバナラヌコト、思フノデアリマス、故ニ北海道帝國大學ヲ速ニ完成ヲ致シテ、綜合大學ノ實ヲ舉ゲラシムコトヲ望ム所以デアリマス、之ガ本案ヲ提出シマスル大要ノ理由デゴザイマシテ、御贊成ヲ乞フ次第デアリマス(拍手)更ニ北海道ニ高等學校ヲ設置スル必要ナル所以ヲ申述ベタイト思フノデアリマス、之ヲ人口ノ上カラ觀マサルニ、府縣ニ於ケル人口ニ對スル高等學校ノ割合ハ、人口百六十五万乃至二百万ニシテ一高等學校ヲ有スルノ割合デアリマス、又面積ノ上カラ觀マサルニ、九州ニハ高等學校ハ四校デアリマス、四國ニハ二校、中國ニハ三校、奧羽ニハ三校、關東ニハ四校ト云フヤウナ割合デゴザイマスルガ、之ヲ北海道ノ面積六千有方里、九州、四國、山陰道ヲ合シマシテモ及バザル大ナル面積ヲ持テ居ルノデアリマス、面シテ人口ハ今ヤ二百三十五万ヲ超エテ居ルデアリマスルガ、斯ノ如キ面積及人口ニ於キマシテモ、府縣ニ比シマシテ大ナル差ガアルニ拘ラズ、未ダ高等學校一ツモ有セヌト云フヤウナ狀態デアリノデアリマス、又更ニ最近高等學校ヲ設置セラレテ居ル所ノ府縣ノ狀態ヲ見マサルニ、其縣ニ於ケル中學校ノ數及中學校卒業生ノ數ヲ見マサルニ、是亦思半バニ過ギルノデアリマス、其縣ニ於キマシテハ、中學校ハ三校乃至六校ゴザイマス、サウシテ其卒業生ハ——中學校卒業生ハ二百名乃至四百名デアリマス、然ルニ北海道ニ於キマシテハ、大正十一年度ニ於テ、中學校ノ數ハ十四、卒業生ノ數ハ六百六十名ニ達スルノ豫定デアリマス、又高等學校ニ志望スル所ノ數ニ於キマシテモ府縣ニ比シテ多キヲ認メルノデアリマス、斯ノ如ク人口、面積、中學校ノ卒業生ノ數、及ビ高等學校ニ入學志望者ノ數ヨリ打算シテ之ヲ見ルトキハ、此北海道ハ高等學校ヲ二校ヲ當然設立シナケレバナラヌコトニナテ居リマス、併ナガラ未ダ一校モ有セザルガ故ニ、本案ヲ提出シタ次第デアリマスカ、何卒御協賛アラント希望致シマス

○鈴木錠藏君 日程第二十二、第二十三ノ兩案ヲ一括シテ福井甚三君外四名提出、奈良ニ美術學校建設ニ關スル建議案、外三件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ム  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第二十四、北海道地代農地設定ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス——松實喜代太君  
第二十四 北海道地代農地設定ニ關スル建議案(松實喜代太君外七名提出)  
北海道地代農地設定ニ關スル建議案  
北海道地代農地設定ニ關スル建議案  
北海道ニ於テ地代農地ヲ設定シ自作農ヲ扶植スルハ拓殖促進上喫緊ノ要務ナリト認ム政府ハ速ニ適當ノ方法ヲ樹テ之カ實行ニ着手セラレムコトヲ望ム  
右建議ス  
〔松實喜代太君登壇〕  
○松實喜代太君 我ハ口今上程サレマシタ所ノ建議案、即チ北海道ニ於テ地代農地ヲ設定シ自作農ヲ扶植スルハ拓殖促進上喫緊ノ要務ナリト認ム政府ハ速ニ適當ノ方法ヲ樹テ、之カ實行ニ着手セラレンコトヲ望ムト云フ建議案デアリマス、此建議案ハ先刻伊藤君ニ於テ述べラレタル所ノ大學完成、若クハ高等學校ノ設置、所謂教育機關ノ向上發展、ソレカラ過日東君ニ依テ説明サレタ所ノ北海道鐵道敷設ノ建議案此三ツハ北海道拓殖上ノ三大要策デアルト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、此事ハ極テ重大ナル事柄デアテ、之ヲ詳細ニ述べマスト云フト、多クノ時間ヲ費シマスカラ、極テ大要ヲ申上ゲテ諸君ノ御贊成ヲ仰ギタイト思ヒマス、北海道ニ地代農地ヲ設定スルト云フノハ、北海道ノ早イ頃大地積ノ土地ヲ幾ツモ集メテ拂下ヲシ、或ハ貸付ヲシ或ハ賣拂ヲシテ、サウシテ今日尙ホ其等ノ土地ハ、私人ニ依テ所有ハサレテ居リマスケレドモ、資金缺乏ノ爲ニ其開發ヲ妨ゲテ居ル土地ガ澤山アルノデアリマス、要スルニ大地主ハ土地ヲ持ツテハ居リマスケレドモ、小作人ヲ得ルニ苦シム、又農業者ノ方デハ土地ヲ得ント欲スレドモ、其方法ガ無イノニ苦シムデアリマス、ソコデ此案ハ北海道ニ於テ今申上ゲタヤウナ土地ヲ開發スル爲ニ、國家ガ

自ラシテモ宜シイガ、又北海道ノ地方費トシテヤ、モ宜イ、又或ハ特殊會社ヲ設立シ、ソレニ經營セシメテモ宜シイデアリマス、執レニ致シマシテモ、北海道ノ現狀ハ此儘ニ置去テ行クコトハ出来ヌト云フデアリマス、斯ノ如キ大地積ノ土地ヲ買收致シマシテ、サウシテ之ニ改良整理ヲ加ヘ、小サク分割シテ移民ヲ招來シ、長期ノ年賦金ニ依テテ費拂フ、サウシテ自作農ヲ扶植スルト云フノガ此案ノ主旨デアリマス、併ナガラソレヲ致シマスルニモ、適當ノ機關ヲ設立シナケレバナラヌデアリマス、此地代農地ト云フコトハ、日本ニハ極メテ新シイデアリマス、私ノ知り得ル範圍ニ於テハ、北海道ニ田中清輔ト云フ大農場ヲ持テ居ル人がアリマシテ、自ラ此地代農地ヲヤテ居ル、又其後拓殖會社ト云フモノヲ設立シテ、此地代農地ノ方法ヲ採テ、サウシテ自作農ヲ殖ヤシテ居リマスケレドモ、此私人若クハ私設會社ニ依テ經營サレルト云フコトハ、要スルニ執レモ營利ノ事業ニナルデアリマスカラ、到底十分ナル效果ヲ奏シ得ナイ、即チ斯ノ如キコトハ國家的公共事業デアリマスガ故ニ、只今申シマシタヤウニ、國家自ラヤルカ、或ハ地方廳ヲシテヤセルカ、或ハ政府ノ恩典ノアル所ノ特殊會社ヲ設立シテヤルカト云フコトニ歸著スルデアリマス、此地代農地ト云フノハ歐羅巴ニ於テ昔カラヤテ居ルコトデアリマシテ、先ヅ最近四五十年間ハ社會政策又農政政策トシテ之ヲ盛ニ行テ居ルデアリマス、殊ニ獨逸ニ於テハ、成績ガ非常ニ良イノデ、他ノ模範トナルベキ所ノ地代農地法ト云フモノガアルデアリマス、是等ニ付キマシテモ、一々申上ゲテ諸君ノ御參考ニ供シタインデアリマスケレドモ、時間ヲ省ク爲ニ、ソレ等ハ略シマス、要スルニ此地代農地法ト云フモノハ、我國ニ於テ獨リ北海道ノミナラズ、各府縣ニ設定スル必要ガアリト信スルデアリマス、例ヘテ申シマスト我國ニ於テ現今土地ヲ持テ居テサウシテ直接ニ農業ニ關係セザル地主ハ約九十一萬戸デアルト云フコトデアリマス、又五十町歩以上ノ土地ヲ持テ居ル地主ガ三千二百餘アル、サウシテ其地主等ノ所有スル面積ハ約四十萬町歩ニ達シ、其大地主ノ下ニ小作人が五十八萬戸アルト云フコトデアリマス、一人ノ地主ノ下ニ二百八十戸モ小作人ガアル、中ニハ甚シキハ一人ノ地主ノ下ニ二千六百三十八戸ノ小作人ガアルト云フヤウナ處ガアル、斯ノ如キハ國家ノ一大缺點デアルト思フデアリマス、故ニ近時地主ト小作トノ爭議ガ頻發スルト云フコトニナラト思フデアリマス、併シ府縣ニ於テハ數百年若クハ數千年來ノ歴史、習慣ガアリマスカラ、容易ニ此地代農地法ヲ設定

スルコトハ困難ト思ヒマスケレドモ、北海道ニハ幸ニ是等ノ歴史因習等ガ無イデアリマスカラ、是ハ北海道ニ初テノ試デアリマスケレドモ、此仕事ヲヤラシクナラバ、必ヤ相當ノ成績ヲ擧ゲ得ルト思フデアリマス、北海道ハ府縣トハ違テ面積ガ廣クテ、人口ガ少イデアリマスカラ、一朝地主小作ノ問題ガ起ルト、容易ニ是ハ解決シマイト思フ、昨年アタリハ石狩ノ雨龍ト云フ處ニ少シノ紛擾ヲ來シタコトガアリマシタガ、今年ニ至ラテハ、最近東京ノ新聞ヲ見マスト、北海道カラ續々小作代表者ガ出テ、大地主ニ向テ小作料ノ輕減ヲ陳情スルト云フコトデアリマス、若シ是ガ大體小作人ノ要求通り決シナカッタ場合ニハ、重大ナル事柄ヲ惹起シハセヌカト深ク憂ヘテ居ルデアリマス、故ニ此場合ニ於テ北海道ニ地代農地ヲ設定致シマシテ、サウシテ斯ノ如キ事態ヲ惹起セヌヤウニ未然ニ防ギタイト云フノガ、本建議案ノ趣旨デアリマス、ドウソ諸君ノ御賛成ヲ得タクゴザイマス

○鈴木錠藏君 本案ハ土井權大君提出、農業組合法外六件ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔賛成〕贊成「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十五、船員ノ選舉權行使ニ關シ選舉法改正ニ關スル建議案ヲ議題ニ致シマス、牧野良三君

**第二十五 船員ノ選舉權行使ニ關シ選舉法改正ニ關スル建議案(牧野良三君外九名提出)**

船員ノ選舉權行使ニ關シ選舉法改正ニ關スル建議案

船員ノ選舉權行使ニ關シ選舉法改正ニ關スル建議案

船員ハ選舉權ヲ有スル場合ニ於テモ其ノ職業ノ性質上實際ニ之ヲ行使スルコトハ殆ト不可能ニシテ強テ之ヲ行使セムトスレハ船舶ノ運航ニ支障ヲ來スニ至ル故ニ帝國ノ海上交通ヲ阻害スルコトナク而モ船員ヲシテ其ノ選舉權ヲ行使セシムト欲セハ一ニ現行選舉法ヲ改正シ船員ニ限リ特別ノ選舉手續ヲ制定スルノ外ナシ故ニ現行選舉法ノ根本原則ヲ紊ルコトナク却テ其ノ法意ヲ擴充シテ適當ノ方法ヲ設ケ以テ有權者タル船員ノ爲ニ選舉權行使ノ途ヲ開カレムコトヲ望ム

右建議ス

〔牧野良三君登壇〕

○牧野良三君 只今議題トナリマシタル船員ノ選舉權行使ニ關スル建議案ニ付キマシテ、本員ヨリ簡單ニ提案ノ理由ヲ申述ヘタイト存ジマス、選舉權擴張ノ聲ガ最近特ニ國民ノ熱心ナル叫トナリツ、アルト云フコトハ、海ニ喜ブベキ事象デアルト信ズルデアリマスガ、同時ニ積極的ニ選舉權ヲ擴張スルト共ニ、現在ノ選舉法ノ下ニ於テ、規定ノ不備缺陥カラシテ選舉權ヲ行使スルコトノ出來ナイ重要ナル國民ノ一團ノアルト云フ事ニ、深ク御留意ヲ願ヒタイト思フデアリマス、ソレハ即チ船員デアリマス、大小ノ船舶ニ乘込シテ帝國ノ海上交通運輸ノ國家的的使命ニ從事シテ居ラレル所ノ船舶乘務員デアリマス、申ス迄モナク選舉權ハ、選舉權者自身ガ投票場ニ赴イテ投票ヲ自ラセナケレバナラヌ結果ト致シマシテ、是等海上勤務ヲ本職ト致シテ居ル船員諸君ハ選舉權ヲ行使スル事ノ出來ナイノガ原則デアリマス、斯ノ如ク致シマシテ、大汽船ノ船長、機關長若クハ運轉士、機關士ト云フガ如キ、立派ナル社會上ノ地位ト國家ノ待遇トヲ持テ居ル人トガ、未ダ會テ選舉權ヲ行使シタコトガナイト言ハレル人トガ、其數甚ダ多イデアリマス、此點ニ於キマシテ、第一ニ私ガ諸君ニ御留意ヲ願ヒタイト思ヒマス、我ノ我國ガ海運國デアルト云フ點デアリマス、而シテ世界三大海運國ノ一ツデアルト云フ點デアリマス、隨テ船員ノ國家ニ對スル責任ハ重ク、國民中責任ノ重イ船員ノ數ガ、又相當カラザル數ニ上ラテ居ルト云フ事ナデアリマス、此責任ノ重ク、而モ其數ノ甚ダ多カラザル國民ノ一團ガ、其職務上而シテ現行法規ノ上カラ致シマシテ、殆ト當然ニ選舉權ヲ行使スルコトガ出來ナイト云フ事ハ、選舉權尊重ノ聲ノ高イ今日、看過スルコトノ出來ナイ重大ナ問題デアルト云フコトハ、敢テ私ガ此處デアリシク申述ヘル迄モナイ事デアラウト存ジマス、斯ノ如ク致シマシテ、是等船員諸君ハ、最早ヤ長ク選舉權ガ行使出來ナイト云フヤウナ状態ニ甘ズルコトガ出來ナイト云フ叫ヲ申出デマシタト同時ニ、吾々亦吾等ノ利害ヲ議政府ニ代表セシメタイト云フ熱心ナル叫ヲ齎シテ來タデアリマス、御承知ノ如ク國民ハ其選舉權ヲ行ヒマスルニハ、自己ノ務自己ノ職務ノ一部ヲ擔シテ以テ之ヲ爲スデアリマス、ソレト同ジク船員諸君モ亦國民トシテノ此義務ヲ果スガ爲ニ、自己ノ職責ノ一部ヲ擔シテ決意ヲ爲シタルトキ、其時ニ於ケル我ガ政府ノ重大命令航路、若クハ其他各方面ニ涉ル所ノ海上ノ交通運輸ノ狀態ガ、如何ナル結果ニナルカト云フコトモ、亦私ガ多ク述ベ

ル迄モナク、諸君が御諒察下サル事アラウト存ジマス、既ニ  
雨降ラザルニ届ルヲ閉サナケレバナラス事ノ起ル前ニ於キマ  
シテ、吾々ハ國民トシテハ、務同時ニ海員トシテノ務、此二ツ  
ヲ二ツナガラニ企ウスルハ途ヲ講ジテ、同時ニ又海員ト云フ  
職務ニ對シ、之ヲ勸誘シ獎勵シテ、我が海運政策ノ助長ニ  
資スルト云フコトハ、諸君ト吾々トノ輕カラザル任務デア  
ト信ズルモノデゴザイマス、希クハ政府當局ニ於キマシテモ、  
多少ノ面倒ヲ厭ハセラレズ、此點ニ對スル現行選舉法ニ適  
當ナル規定ヲ加ヘラレテ、以テ是等船員ノ希望ヲ満足セラ  
レタイト思フデアリマス、第二、然ラバ先進海運國ニ於テ  
ハ如何ナル狀態ニナラシメ居ルカト云フコトニ付テ、簡單ニ其  
立法例ヲ一瞥シテ見マシレバ、北米合衆國ニ於テハ、早ク既  
ニ多數ノ「ステート」ニ於テ之ガ規定ヲ爲シ、且英國ノ如キモ  
千九百十八年ノ改正選舉法ニ於キマシテ、單ニ海員ノミナ  
ラズ、一般ノ不在選舉權者即チ、アブセントボーター」ノ爲ニ  
廣汎ナル深切ナル規定ヲ設ケ、更ニ又諾威ノ如キ、敢テ一  
等國デアハナイト言ヒマシテモ、海運國トシテ世界ニ聞エタル  
國デアアルクニ、既ニ海員ニ對シテ選舉權ヲ行使スルノ規定  
ニ付テ、等閑ニ附スルノ事ハ無イデアリマス、單リ世界ノ  
最大海運國ノ一ツデアルト云フ我國ニ於テ此事無ク、此事  
ガ無イノミナラズ、之ニ關スル聲ノ頗ル低調デアルト云フ事  
ハ、選舉權ニ關スル重大ナル聲ガ國民ノ間ニ起リ、居リマス  
ル昨今、尙ニ私ハ遺憾ヲ感ズル事ガ深イデアリマス、然ラ  
バ如何ナル方法ノ下ニ於テ此目的ヲ達セントスルカ、第三  
ト致シマシテ、此點ニ付テ簡單ナル意見ヲ申述ベテ御參考  
ニ供シテ見タイト存ジマス、現行選舉法ノ第三十條ニハ、投  
票場ハ敢テ市役所、若クハ町村役場ニ限ラズシテ、必要ト  
便宜ニ依ラテハ、地方長官ノ許可ヲ得レバ、適當ナル場所ニ  
之ヲ設ケル事ガ出來ルト云フ便法ガ規定致シテアルノデア  
リマス、即チ本員等ハ此便法、此法意ヲ酌シテ、此法意ヲ擴  
張シテ、以テ船舶ノ寄港地ニ一種ノ投票場ヲ設ケラレタイト  
云フノガ希望ノ一ツデアリマス、次ニ第二ト致シマシテ、現行  
衆議院議員選舉法ニ於キマシテハ、同一ノ日ニ全國一齊  
ニ投票スルト云フコトガ原則ニナラシメ、併ナガ  
ラ其第四十三條ニ於キマシテ、島即チ島嶼、其他交通不便  
ナル地ノ爲ニハ、例外ト致シテ特別ノ投票日ヲ定メル事ヲ  
得ルト云フコトニナラシメ居ルデアリマス、而シテ其最モ顯著  
ナルモノトシテ、東京府下ニ於ケル小笠原島等ガ諸君ノ頭  
ニ在ル所ノ最モ顯著ナル事例デアラウト存ズルデアリマス、

即チ本員等ハ海員ノ爲ニ、船舶寄港地ニ之ト同一ノ法意  
ノ便宜規定ヲ設ケラレシコトヲ希望スルノガ即チ其二デゴ  
ザイマス、更ニ第三ト致シマシテ、現行選舉法ハ、其第一百  
條ノ規定ニ依ラテ、北海道及沖繩縣ニ於テ、本法ノ規定ヲ  
適用シ難キ事項ニ付テハ、勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケル  
コトガ出來ルト云フ風ニナラシメ居リマス、即チ現在北海道及  
沖繩ト云フガ如キ特別ナル地方ニ向ラテハ、勅令ヲ以テ特別  
ノ便宜規定ヲ行フ事ガ許サレテ居リマシテ、既ニ是等ノ兩  
地方ハ、此勅令ノ恩典ニ與ラテ居ルデアリマス、即チ本員  
等ハ此點ニ於テ是ト同種ノ便宜規定ヲ、船員ノ選舉權行  
使ノ爲ニ認メラレムコトヲ希望スルノガ即チ其三デアリマス、  
是ハ本員ガ本案ノ理由ト致シマシテノ大要デアリマス  
ルガ、案其モノハ現行選舉法ノ改正ト言ヒマスルケレドモ、  
實ハ現行選舉法ノ法意ヲ擴充シ、例外規定ヲ設ケテ以テ  
其本旨ヲ實行シ、以テ新時代ノ國民ノ風潮ト、國家的觀  
念トヲ合致セシメントスルノガ、即チ結論的ノ希望デアリマ  
ス、本案ハ既ニ過去數回本院ニ請願トシテ、本院議員諸君  
ノ注意ヲ喚起シ、更ニ昨年ハ國民黨ノ砂田君、茲ニ植原君  
ヨリモ建議案トシテ提出サレタル沿革ヲ持テ居ルデアリ  
マスガ、尙ホ本院ニ於ケル十分ナル注意ヲ喚起スルニ至ラザ  
ルコトハ、深ク本員ノ遺憾トスル所デアリマス、願クバ此案ハ  
委員會ニ掛ケラレマシテ、慎重御審議ノ上、來年ノ議會ニ  
於テハ願クバ政府ヨリ適當ノ提案ヲ見ルコトノ出來マシヤ  
ウニ諸君ノ御盡力ヲ冀ヒマシテ、本案提出ノ理由ヲ結ブ次  
第デアリマス(拍手起ル)

○鈴木錠藏君 本案ハ安達謙藏君外九名提出ノ市制中  
改正法律案、外四件ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望  
ミマス

〔贊成〕下呼フ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ハナイ  
ト認メマス、仍テ本案ハ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十  
六、平、小名濱間鐵道速成ニ關スル建議案ヲ議題ト致  
シマス、白井博之君

第二十六 平小名濱間鐵道速成ニ關スル  
建議案(白井博之君外五名提出)

平小名濱間鐵道速成ニ關スル建議案  
平小名濱間鐵道速成ニ關スル建議案  
福島縣石城郡平町及小名濱港沿海地方ハ海陸ノ物

産ニ當リ右兩區間ノ鐵道敷設ハ西日本海ノ東太平洋  
トノ海陸聯絡ヲ完成スル上ニ於テ最緊要ノ線路ナルヲ  
以テ政府ハ速ニ計畫ヲ定メ之カ完成ヲ期シ以テ地方産  
業ノ開發ニ資セラムコトヲ望ム

右建議ス

〔白井博之君登壇〕

○白井博之君 平小名濱間鐵道速成ニ關スル建議案ハ、  
昨四十四議會ニ於キマシテ、滿場一致ヲ以テ本院ノ可決  
ヲ經タル案デアリマスルカラ、今茲ニ詳細ナル説明ヲ爲ス必  
要ハナイト存ジマス、大正六年ニ改正致シマシタル本州橫  
斷線ノ一トシテ、新潟縣福島縣下ヲ貫通致シマシタ、彼ノ  
磐越東西線、此磐越東西線ノ現在ノ終點ハ福島縣ノ平町  
デアリマス、此福島縣平町ノ磐越東西線ノ終點ヲ現在ノ儘  
ニ置キマシテハ、磐越東西線ノ眞ノ全通ト稱スルコトハ出來  
ナイデアリマス、即チ平町ヨリ南小名濱ニ達スル本案ノ鐵  
道ヲ速成スルニ非ズンバ、磐越東西線ノ眞ノ全通ト云フコ  
トガ出來ナイデアリマス、此意味ニ於ケル磐越東西線ノ全  
通ト云フコトハ、本州唯一ノ炭田ヨリ產出致シマスル所ノ  
彼ノ磐城ノ石炭、即チ常磐炭、此常磐炭ノ海陸運輸ノ利便  
ヲ圖ル爲ニ、又東太平洋ト西日本海トノ海陸運輸ノ便モ  
開ク爲ニ於キマシテモ、最モ必要ナル線路デアアルデアリマ  
ス、願クバ諸君ノ御贊成ニ依リマシテ、本案鐵道速成ノ目的  
ヲ達成セラレンコトヲ希望致シマス(拍手起ル)

○鈴木錠藏君 本案ハ植原君外一名提出、片町長尾  
間電力鐵道延長ニ關スル建議案、外十三件ノ委員ニ併セ  
テ付託セラレムコトヲ望ミマス

〔贊成〕下呼フ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ハナイ  
ト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十七、産  
業組合ノ振興ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、土井權大  
君

第二十七 産業組合ノ振興ニ關スル建議  
案(土井權大君提出)

産業組合ノ振興ニ關スル建議案  
産業組合ノ振興ニ關スル建議案  
産業組合ノ目的ハ生活ノ安定ヲ期シ思想ノ善導ヲ圖ル  
ニ在リ然ルニ我カ國ノ産業組合ハ徒ニ其ノ形骸ヲ存シ  
實質ヲ具備セルモノ抄キノ現状ナリ

政府ハ速ニ其ノ組合ノ振興ニ關スル諸般ノ方策ヲ講シ  
社會政策ノ實行ニ努ムヘシ  
右建議ス

〔土井權大君登壇〕

○土井權大君 極テ簡單ニ說明ヲ致シマス、御承知ノ通  
リ、産業組合ノ高遠ナル理想ハ何デアルカト申上テマシタ  
ナラバ、經濟道徳ノ調和ヲ圖ルニ在ルノデアリマス、評シク  
申セバ國民生活ノ安定ヲ期シ、更ニ進シテ國民ノ思想ノ善  
導ヲ圖ルニ在ルノガ、社會政策中ノ最モ完全ナル政策ト唱  
ヘラレテ居ルノデアリマス、而モ我國ニ於キマシテ、其産業組  
合ノ數ハ、御承知ノ通り一萬三千以上ヲ算フルニ至ラテ居  
リマス、數モ隨分澤山アリマス、又理想ト致シマシテモ、極テ  
立派ナル理想ヲ持テ居リマスルガ、其實際ニ至ラズハ如何  
デアルカト申上テマシタナラバ、悲シイ哉其實績ヲ舉ゲテ居  
ル産業組合ト云フモノハ極テ少イノデアリマス、數ハ多シ立  
派デアルケレドモ、極端ナル言禁ヲ以テ言ヘバ形骸ノミヲ存  
シテ其内容ノ具備セルモノ少シ、絕對ニ無イトハ言ハヌケレ  
ドモ、八十二カニテアル、斯ウ云フ状態ハ御承知ノ通りデア  
リマス、然ラバ其原因ハ那邊ヨリシテ斯ノ如クナルカト申上  
テマシタナラバ、第一ハ此産業組合ト云フ經濟組織ガ、餘  
リ直譯ノニシテ又翻譯ノデアル、我國ノ國民性ニ合致シ  
テ居ラヌノガ一デアラウト私ハ思フノデアリマス、即チ我が日  
本ノ國民性ハ、兎角此經濟ノ共同一致心ト云フコトヲ缺  
イテ居ル、然ルニ此産業組合ト云フモノモ、此經濟ノ共同  
一致ヲ圖ラヌ、斯ウ云フ所ヨリ致シマシテ發達シナイノデア  
ラウト私ハ思フノデアリマス、第二ハ産業組合ナルモノノ如  
何ナルモノデアルカト云フコトノ趣旨ヲ宣傳スル所ノ機關ガ  
缺如シテ居ルノデアリマス、之ガ發達シナイ所ノ原因デア  
ルト思ヒマス、既ニ簡易生命デアルトカ、或ハ郵便貯金デア  
ルトカ云フガ如キニ至ラテハ、十分ノ宣傳ノ方法ヲ御執リニ  
ナリマスガ爲ニ、簡易生命モ盛ニナリ、又郵便貯金モ盛ニナ  
リマスガ、産業組合ナドニ向テハ、何等ノ宣傳機關方法ト  
云フコトヲ講ジテ居ラナイノミナラズ、又講ジテ居ル所ノ人  
ガ無イノデアリマス、之ガ第二ノ發達シナイ原因デアルト思  
ヒマス、ソレカラ第三ト致シマシテハ、國民ノ自覺心ガ無イ、  
即チ産業組合ノ必要ナル所以ヲ解シテ居ル所ノ人ガ少イ  
ノデアルト、斯ウ私ハ斷定ヲ致スノデアリマス、第四ノ原因ト  
致シマシテハ、政府ノ政策——産業組合ニ對スル所ノ政府ノ  
政策ガ不徹底デアル、極テ微温的デアル、果シテ此産業組  
合ト云フモノヲ發達セシムル所ノ御考アリヤ否ヤヲ疑フガ  
如キ感ガアルノデアリマス、現ニ此産業組合法中ニ信用組

合ト云フ制度ガアリマス、信用組合ト云フモノハ單純ナルモ  
ノヨリ進シテ聯合會ヲ造リ、進シテ其上ニ聯合會ヲ造ルト  
斯ウ系統のニヤラナケレバ本當ノ信用組合ノ實ヲ舉ゲルコ  
トハ出來マセヌ、政治ニ致シマシテ所ガ、中央ニ政廳アリ、地  
方ニ縣廳アリ、郡役所アリ、村役場アリト云フ如ク、系統的  
ニ出來テ居ル、又銀行ニ致シマシテモ、中央ニ日本銀行ア  
リ、又支店アリ、ソレガ各地ニ枝葉ヲ差シテ居ル、獨リ此信  
用組合ト云フモノハ、サウ云フ系統的ノ事ヲ禁ジラレテ居ル  
ノデアル、部分的ニ相成テ居ル、系統的デアリマスガ爲ニ、  
金融ノ上ニ於キマシテモ、甲ノ信用組合ニ於テハ金ガ有ル  
ガ、乙ノ地ニ存在シテ居ル信用組合ニハ金ガ足ラナイ、有無  
相通ジナイ、斯ウ云フヤウナ状態デアリマス、之ガ一例デア  
リマス、ソレカラ又モウ一ツノ例ヲ舉ゲマスレバ、日本固有ノ金  
融ト云フモノハ、特ニ農村ニ於ケル所ノ金融ハ何デアルカト  
云ヘ、無盡法デス、無盡業、無盡ト云フ經濟組織ガ必要デ  
アル、是等ノ事業ト云フモノヲ産業組合ノ聯合會、信用組  
合ノ聯合會ニ行ハシメタナラバ、圓滿ニ此農村ニ於ケル所ノ  
金融機關ト云フモノハ完備スルニ拘ラズ、ソレ等ノ事業ト云  
フモノヲ信用組合ニ行ハシメルコトヲ禁ジテ居ル、是等ハ一  
二ノ例デアリマス、即チ政府ハ産業組合ニ對スル所ノ政  
策ト云フモノガ飽マデモ不徹底デアル其他ノ例ヲ舉ゲマシ  
タナラバ、枚舉ニ違アリマセヌ、更ニ甚ダ疑ハシイ事ガアリマ  
ス、ソレハ如何ナル事デアアルカト云ヘバ、極テ此發達ナサント  
致シテ居ル産業組合數ハ少イノデアリマスルガ、偶、ニシテ  
發達ヲ致ス所ノ傾向ガアタナラバ、其産業組合ニ向テ資  
本家ガ一ツノ同盟ヲ造テ、其發達ヲ妨害スル所ノ事實ガ  
アルノデアリマス、現ニ信用組合ノ中ニハ、市街地信用組合  
ト云フモノガアリマス、是ハ御承知ノ通りデアリマスルガ、日  
本ニ八十程出來テ居ルノデアリマス、今日最モ盛ニ出來テ  
居ル所ノ市街地信用組合ハ何處デアアルカト云ヘバ、神戸デ  
アリマス、此神戸ノ市街地信用組合ガ益、發達ヲ致シテ、隨  
分社會ノ信用モ得マシテ、益、發展ノ時機ニ到達致サウト  
シタ時ニ方テ、神戸ノ銀行業者ハ如何ナル態度ヲ執ッタカ  
ト申シマスレバ、所謂銀行集會所——銀行集會所ヨリ成  
立テテ居ル所ノ手形交換所ナドハ、一齊ニ契約ヲ致シテ、是  
等ノ産業組合ヲ妨害シテヤラウデハナイカ、ソレカラ市街地  
信用組合ヲ妨害シヤウ、市街地信用組合ヨリ發行シタル  
所ノ手形ニ對シテハ何等ノ便宜ヲ與ヘマイ、代理交換ナド  
ノ如キ形式ヲ持束ルト雖モ、市街地信用組合ノ手形ニ向  
テハ何等ノ交換ノ便宜モ與ヘマイ、斯ウ云フ決議ヲ致シタ  
ノデアリマス、ソレカラ又或ル田舎ノ隨分發達致シテ居ル所

ノ農業倉庫、所謂産業組合法ニ依テ經營ヲ致シテ居ル所  
ノ農業倉庫ガ、莫大ナル農產物ヲ集メテ居リマス、是等ヲ  
他國ニ輸送致サウトスル時ニ當テ、或ル田舎ノ銀行ガ同  
盟ヲ致シマシテ、産業組合ノ取扱テ居ル所ノ荷物ニ對シテ  
ハ、何等荷爲替ノ便宜ヲ與ヘマイ、斯ウ云フヤウナ決議ヲ致  
シテ居ルノデアリマス、而モ政府ト致シマシテハ、斯ノ如キ不  
正ナル不當ナル決議ヲ致ス銀行業者ニ對シテハ、相當ノ警  
告ヲ與ヘラレル所ノ私ハ權利アリ、權限アリト考ヘテ居ルノ  
デアリマス、然ルニ是等ニ向テハ何等ノ警告モ與ヘズ、何等  
ノ制裁モ施シテ居ララマセヌ、之ニ反シテ小サナ商賣人ガ  
同業組合ナラ同業組合ト云フ組合ヲ造リ、重要物產同業  
組合法ニ依テ造リ、價格ヲ協定ヲ致シタトキニハ、非常ナ  
壓迫ヲ加ヘテ、彼等小賣業者ハ暴利ヲ貪ルモノデアルト云  
フヤウナ態度ニ出デ、同業組合ノ解散ヲ命ジ、事業ノ停止  
ヲ命ゼラレル所モアリマス、是レ即チ中産階級、並ニ中産  
以下ヲ酷ク虐メラレテ、中産階級以上、而モ銀行ノ如キ金  
融權ヲ握テ居ル如キ資本家ヲ擁護サレテ居ルト云フ狀  
態デアリマス、斯ノ如キ状態ヨリシテ、産業組合信用組合ノ  
發達ヲ害シテ居ル事例ハ枚舉ニ違アラズ、即チ政府ノ政策  
ハ産業組合ノ發達ト云フコトニ對シテ、非常ニ微温的デ  
アル、極テ不徹底デアルト、斯ウナルノデアリマス、即チ日  
本ニ於テ産業組合ノ發達シナイ原因ハ、只今申上テ居ル所ノ四  
ツデアリマス、四ツノミナラズ、而モ只今申上テ居ル所ノ資  
本家ヲ擁護シ、中産階級並ニ中産階級以下ヲ虐メ、又中産  
階級並ニ中産階級以下ノ福利増進ニ直接關係アル所  
ノ産業組合ニ向テ、極テ冷淡デアルト斯ウ云フ事ニ相成  
テ居ルノデアリマス、仍テ此建議ト致シマシテ私ハ「産業組  
合ノ目的ハ生活ノ安定ヲ期シ思想ノ善導ヲ圖ルニ在リ然  
ルニ我國ノ産業組合ハ徒ニ其形骸ヲ存シ實質ヲ具備セル  
モノノ少キノ現狀ナリ政府ハ速ニ其組合ノ振興ニ關スル諸般  
ノ方策ヲ講ジ社會政策ノ實行ニ努ムヘシ」ト斯ウ云フ建議  
デアリマス

○鈴木錠藏君 本案ハ土井權大君提出ノ農業倉庫法  
案外七件ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(柏谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナシト  
認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十八、煙草  
專賣法律中改正ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス——樋  
渡次右衛門君

第二十八 煙草專賣法中改正ニ關スル建

議案(樋渡次右衛門君外四名 提出)

煙草專賣法中改正ニ關スル建議案

煙草專賣法中改正ニ關スル建議

煙草專賣法中改正ニ關スル建議案
煙草專賣法ハ明治三十一年ノ制定ニ係リ繁苛ナル規
定抄カラス時代ノ進運ニ伴ハサルモノアリト認ムルニ依
リ(一)葉煙草ノ數量査定ヲ廢止シ(二)葉煙草ノ鑑定ニ
ハ煙草耕作者ノ選舉シタル代表者ヲ立會セシメ(三)葉
煙草賠償額ハ政府ノ命スル官吏及耕作者ノ選舉シ
タル審査員ヲ以テ之ヲ決定スルノ條項ヲ加フルコトニ改
正セラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔樋渡次右衛門君登壇〕

樋渡次右衛門君 私ハ只今上程ニ相成リマシタ煙草
專賣法中改正ニ關スル建議案ハ、利害關係ノ及ブ所ハ獨
リ耕作者ノミデハナイト思ヒマス、又政府ニ對シテモ洵ニ重
大ナル關係ヲ有シテ居リマスル所ノ意義アル問題デアルト
思ヒマスルガ故ニ、少シク其說明ヲ致シテ見タイト考ヘマス、
併ナガラ會期モ幾許モナク、議案輻輳ノ今日、成ベク簡單
ニ其大要ヲ申述ベタイト考ヘマス、即チ該建議案ハ三ツノ
條項ニ分テテ居リマス、第一ハ數量査定ヲ廢シテ貫ヒタ
イト云フコトデアリマス、第二ハ鑑定ノ際ニ耕作者ノ選舉
致シマシタル所ノ立會人ヲ立會ハサセテ貫ヒタイト云フコト
デアリマス、第三ハ賠償價格ハ政府ノ命ジタル所ノ官吏ト、耕
作者ノ選舉致シマシタル所ノ審査員トデ以テ、公平ナル價
格ヲ決定シテ貫ヒタイト云フコトデアリマス、其第一ノ數量查
定ヲ廢シテ貫ヒタイト云フコトハ、煙草ノ收穫時期ニ
於キマシテ、暴風雨等ノ催シマサル場合、サウ云フ場合ニ於
キマシテ、現行法ハ自由ニ其煙草ヲ刈取ルコトハ出來ナ
イト云フコトニテ居ルノデアリマス、ソコデ耕作者ニ於キマ
テハ、適當ナル所ノ時機ヲ失ヒマシテ、ソレガ爲ニ煙草ノ
品質ヲ非常ニ惡ク致シ、或ハ暴風雨等ノ爲ニ全ク其收穫
ヲ得ルコトガ出來ナイト云フヤウナ不幸ヲ見ルコトガアルノ
デアリマス、畢竟スルニ是ハ獨リ耕作者ノ損失許リデハナイ
ノデアリマス、政府ノ大ナル損失デアアルノデアリマス、ソコデ
之ヲ廢シテ貫ヒタイト云フコトニ致シマシテ、耕作者ハ斯ル場合
ニハ自由ニ適當ニ、ソレヲ收穫シ得ルコトニスルヤウニシテ
貫ヒタイト云フノニ過ギナイノデアリマス、斯ノ如ク致シマス

レバ、政府ノ當局ハ斯様ニ言ハル、ノデアラウト思ヒマス、若
シモ收穫検査ヲ廢スルト云フコトヲ致セバ、政府ノ豫算編
成ノ資料ヲ得ルコトガ出來ナイ、第二ニ耕作者ノ犯則行爲
ヲ豫防スルコトガ出來ナイ、斯ウ言ハル、ノデアラウト思ヒマ
ス、併ナガラ煙草專賣法ハ、明治三十一年ニ制定實施ニナ
リマシタノデ、其當時ニ於キマシテハ、此數量査定ト云フコ
トハ、全ク無カッタノデアリマス、ソコデ作柄調査ト云フモノヲ
致シマシテ、ソレト植付検査ヲ以テ此豫算編成ノ資料ハ得
ラレテ居リタノデアリマスカラ、今日ニ於テモ決シテソレガ出
來ナイコトモアルマイト思ヒマス、況ヤ其後既ニ二十有餘年
此間當該官吏ハ非常ナル所ノ經驗ヲ經、又大ナル訓練ヲ
積ンデ來テ居ルノデアリマスカラ、是等ハ決シテ憂フベキコト
デハナカラウト思ヒマス、是ハ又私ガ一人ノ私見デモアリマ
セヌ、地方ニ於ケル當該官吏ハ皆爾ク見テ居ルノデアリマ
ス、而シテ之ヲ廢スルト云フコトニ致シマスレバ、之ニハ政府
ハ莫大ナル經費ヲ使シテ居ルノデアリマスカラ、自然其經費
モ節約スルト云フコトニナルノデアリマシテ、所謂一舉兩得
ト云フモノデアラウト私ハ信ズルノデアリマス、次ニ犯則行
爲ヲ豫防スルコトガ出來ナイト言ハレマセウケレドモ、元煙
草專賣ナルモノハ、之ハ葉煙草ノ專賣デアッタノデアリマス、
其當時ニ於キマシテハ、耕作者モ專賣ノ如キ、詰リ真相モ
能ク分リマセズ、意思ノ諒解ヲ得マセヌ爲ニ、始終惡心事モ
致シタニ違ヒハアリマセヌガ、併シ其當時ニ於キマシテハ、製
造ハ民業デアリマシタカラ、民業製造者ハ從來カラ仕來タ
ル所ノ關係モアリマセウガ、又不當ノ利益ヲ貪ランガ爲ニ、
詰リ耕作者ニ買買ヲ強イタト云フモノ宜シイノデ、犯則行爲ヲ
耕作者ニ勸メタト云フモノ私ハ差支ナカラウト思フノデアリ
マス、併ナガラ今日ハ既ニ專賣法モ改正ニナリマシテ、製造
ノ方モ官業ニナリテ居リマスカラ、耕作者ガ斯カル大ナル犯
則行爲ヲ爲サウト申シマシタ所デ、ドウシテモ出來ナイコト
ニナリテ居ルノデアリマス、然ラバ犯則行爲ナルモノハ、今日ニ
於テハ絶對ニ無イカト申シマスレバ、私ハ絶對ニ無イトハ申シ
マセヌ、併ナガラ今日有リマスル所ノ犯則行爲ナルモノハ至テ
少イ所デアラ、其最モ微細ナル所ノ犯則行爲デアアルノデアリ
マス、ソレデ是等ノ犯則行爲ハ決シテ數量査定ニ何等ノ影
響ヲ及ボスモノデハナイト私ハ深ク信ジテ居ルノデアリマス、
デ縱シ假ニ聊カノ關係ガアルト致シマシテモ、僅ニ有ル所ノ
些細ノ犯則行爲者ノ爲ニ、非常ニ多數ノ耕作者ニ迷惑ヲ
掛ケ、又政府自ら非常ナル損害ヲ招クト云フコトハ、是ハ決

シテ策ノ得タルモノデハナカラウト思フノデアリマス(拍手)ノ
ウノウ)之ガ第一ニ對シマサル所ノ大體ノ說明デアリマス、
第二ノ鑑定ノ際ニ、耕作者ガ選舉致シマシタル所ノ代表者
ヲ立會ヒサセテ貫ヒタイト云フコトハ至テ簡易デアリマス、煙
草ノ鑑定ハ皆サンノ御承知ノ通り肉眼鑑定デアリマス、デ肉
眼鑑定デアリマサルガ爲ニ、鑑定場所ノ適否、或ハ天候ノ
晴曇等、外部ノ影響ニ依リマシテ、其鑑定ヲ誤ルコトガ屢、ア
ルノデアリマス、斯ル場合ニ於テ、唯再鑑定ヲ求ムルコトガ
出來ルト云フ唯一ノ途ヲ耕作者ニ與ヘラレテアルノデアリ
マス、併ナガラ此再鑑定ヲ求ムルト云フコトモ、中ニ容易ナ
事デアアリマセヌ、吾々ガ申スマデモゴザイマセズ、煙草耕作
者ノ其大半ガ下流ノ人民デアアルノデアリマスカラ、其再鑑定
ヲ求ムルト云フコトニナリマスカラ、ソコニ非常ナル經費ヲ要
スルノデアリマス、若シモ權利ヲ爭フト云フヤウナ場合デモア
リマスレバ、或ハ物質ノ多少ハ或ハ論ズル暇モナイカモ、知リマセ
ヌケレドモ、元々之ガ利益ノ問題デアリマスカラ故ニ、耕作者
ト致シマシテハ其經費ヲ恐レテ、已ムナク泣寢入ニナラナケ
レバナラヌト云フ今日ノ狀態デアアルノデアリマス、洵ニ慘目ナ
ル所ノ法規ト申上ゲナクテヤナルマイト思ヒマス、故ニ斯様
ニ間違ノアリマサルヤウナ場合ニ於キマシテハ、其代表者ノ意
見ヲ述ベサセマシテ、サウシテ即時ニ其鑑定ノ場所ニ於テ、
適當ナル所ノ價格ヲ決定シテ貫ヒタイト云フニ過ギナイノ
デアリマス、第三ハ此賠償價格デアリマスカラ、賠償價格ヲ
現行法ニ依リテ政府ノ命ジタル所ノ官吏ノミデ之ヲ決定シ
テ居ルノデアリマス、固ヨリ政府ノ官吏ガ之ヲ決定スルニ當
リマシテハ、至公至正一片ノ私無イト云フコトハ、固ヨリ私ハ
信ジテ疑ハナイ所デアリマス、併ナガラ農家ノ詰リ耕作方法ト、
農家經濟ノ真相ヲ明ニスルコトハ、中ニ容易ナ事デハナイノ
デアリマス、而シテ此賠償價格ナルモノハ、ドウシテモ生産
費ヲ最低限度ト致スベキモノデアラウト私共ハ信ジテ居ル
ノデアリマス、然ルニ政府ノ公取致シマサル所ノ此賠償價
格ナルモノハ、耕作者ノ生産費ヲ償フコトガ出來ナイト云フ
ヤウナ場合ガ屢、アルノデアリマス、是ハ政府ノ官吏ガ獨斷
專行ノ結果、複雑ナル所ノ耕作行爲ト、錯雜セル所ノ農家
經濟ノ真相ヲ關知スルコトヲ誤ラテ居ル結果ニ外ナラヌコト
ト私共ハ信ジテ居ルノデアリマス、斯ル場合ニ於キマシテモ、
耕作者ハ絶對ニソレニ服従スルコトノ外、何モ言フコトハ出
來ナイノデアリマス、耕作者ニ取テハ、實ニ是ハ專制的法
規ト云ハナケレバナラヌト思フノデアリマス、今ヤ労働爭議

各所ニ起リ、思想界ハ混沌トシテ、動モスレバ民心惡化セシムル原因ニナランコトヲ恐レルト共ニ、專賣事業ノ將來ニ向テ大ニ憂慮ヲ懷ク所ノモノデアリマス、故ニ此三點ニ付キマシテ、政府ハ速ニ時運ニ相當シタル改正ヲセラレンコトヲ切ニ希望シタイト云フニ外ナラヌデアリマス、滿場ノ諸君ノ御贊成ヲ願ヒマス

○鈴木錠藏君 本案ハ岩本平藏君外十一名提出、所得稅法中改正法律案外二件ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十九、火災防止局設置ニ關スル建議案ヲ議題ニ供シマス、高見之通君

第二十九 火災防止局設置ニ關スル建議案

案(高見之通君外六名提出)

火災防止局設置ニ關スル建議案

政府ハ速ニ案ヲ定メ火災防止局ヲ設置スヘシ

右建議ス

〔高見之通君登壇〕

○高見之通君 本案ハ火災ヲ防止スル爲ニ特別ノ機關ヲ設ケヤウト云フ案デアリマス、時間ヲ省略スル意味ニ於キマシテ、此理由書ハ議長ノ許可ヲ得テ速記録ニ掲載シタイト思ヒマス、唯一言言フコトヲ許シテ貴ヒタイノハ、今日ノ火災ノ状態ハドウデアアルカト申シマス、大正五年ヨリ平均一年ニ火災ノ爲ノ損害ハ約一億二千万圓デアリマシテ、殊ニ大正八年ノ如キハ、二億四千万圓カラノ日本ハ火災ノ爲ノ損害ヲ被テ居ルノデアリマス、而シテ之ヲ人口一人當リニシテ見ルト、約四圓五六十錢ノ損失ニナル、然ルニ英吉利トカ、其他ノ方面ニ於キマシテハ、一圓若クハ甚シキニ於テハ二三十錢ニシカ當ラナイト云フ状態デアリマス、獨リ日本ヨリ多クノ損害ヲ被ムルノハ米國デアリマス、亞米利加ノ火災ニ對スル所ノ設備ハ、非常ニ至レリ盡セリデアリマス、殊ニ亞米利加ハ縱ニ發達シテ居ル状態ニ於テ、一軒デモ燃エタナラバ一週間デモ燃エテ居ル、其爲ニ火災ノ損害頗ル非常ニ多イケレドモ、之ニ對ル防備ノ方法ハ

實ニ至レリ盡セリデアリマス、然ルニ日本ハ縱ニ發達スルコトガナイケレドモ、現在ノ建築状態カラ見テ、非常ニ火災ニ罹リ易イ状態デアアルニモ拘ラズ、之ニ對スル所ノ諸般ノ設備豫防其他ノ方法ニ付テハ、不完全極マルノデアリマス、ソレ故ニ前ニ特ニ内務省内ニ一局ヲ設ケテ、之ニ對スル有ラユル研究ヲ科學的ニ、尙ホ種々ノ宣傳ノ方法ヲ講ジテ、燃エ易キ日本ノ此火災ノ損害カラ免カル、方法ヲ講ズルノハ、何ヨリモ最モ急ナル一ノ事業デアアルト心得マシタカラ、茲ニ此建議案ヲ提出シタル所以デアリマス、何卒諸君ハ慎重審議御贊成アラント願ヒマス

(參照)

理由

内務大臣官房編纂三條國勢一斑ニ依レバ我國ノ火災損害額ハ大正五、六、七、八年ノ四箇年ノ平均一箇年損害額四千二百五十六萬五千九百圓ニシテ大正八年度ノ如キ八千四百四十萬八千四百九十圓ノ多額ヲ計上ス、而シテ右損害額ハ單ニ家屋等ノ不動産ノ財產ニ止ルモノニシテ假ニ動産ノ信用ノ財產ノ損害ヲ不動産ノ二倍ト見積ル時ハ我國ノ一箇年ノ火災損害ハ實ニ一億二千七百六十九萬七千七百圓餘トナリ尨大ナル國費ノ約一割ニ相當ス、經濟界不況ノ今日斯ノ如キ莫大ナル損害ヲ受クルハ國民ノ産業ヲ脅威スルヤ論ヲ俟タス政府ハ曩ニ東京大阪ノ外四大都市ニ常備消防タル特設消防署ヲ設置シタリト雖モ他ノ都市ハ依然トシテ義勇消防組ニ依頼スルノミ、歐米ニ於テハ十萬以上ノ人口ヲ有スル都市ニシテ常備消防ノ設備ナキモノハ稀ナリ、我國ニ於テモ右六大都市ノ外人口十萬以上ノ十二都市ニハ常備消防ノ必要アリト思惟ス、又米國等ニ於テハ各州ニ火災防止局ナル特別機關アリテ火災行政ヲ行ヒツ、アルガ我國ニ於テハ東京ノ警視廳ニ消防部アリ大阪府警察部ニ消防課アルノミニテ他ノ府縣ニ於テハ火災消防事務ヲ保安課ノ一部ニ所屬處理スルニ過キズ、斯ノ如キハ畢竟火災行政ヲ輕視スル所以ニシテ火災損害ノ益々増加スル基因ナリトス尙現行ノ消防規則ハ明治二十七年ノ公布ニ係リ社會ノ進歩ニ伴ハザルモノアリ例ヘバ現在ノ市町村消防組ニハ組頭小頭等ノ役員中ニ貴衆兩院議員、府縣郡市會議員等ノ名譽等ノ多數之ニ就職シ居レラガ現行法ニ於テハ此等ノ階級者モ消防ノ職ニ在リテハ一巡査ノ命令指揮ヲ受ケザルベカラズ之ガ爲メ

地方ニ於テハ往々滑稽ノ事態ヲ見ルコトアリ之ヲ要スルニ我國ノ火災消防行政ハ歐米諸國ノ夫レニ比シ多ク遜色ト缺陷アリト謂フベシ政府ハ速ニ火災防止局トモイフベキ特別機關ヲ設置シテ全國ノ火災行政ヲ統一シ之ヲ改善シテ國民ノ罹災ヲ減退スル方今ノ急務ナリト信ズ

○鈴木錠藏君 本案ハ清瀨一郎君外一名提案、治安警察法中改正法律案、外八件ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三十、國庫支辨ニ依ル雇員備人ニ退職手當支給ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、中村清造君

第三十 國庫支辨ニ依ル雇員備人退職手當支給ニ關スル建議案

案(中村清造君外二名提出)

國庫支辨ニ依ル雇員備人ニ退職手當支給ニ關スル建議案

恩給法ノ精神ニ則リ國庫支辨ニ依ル雇員備人ニシテ勤續年限十年以上ノ者退職セムトスルトキハ退職手當トシテ現俸給ノ月額六箇月分以上ヲ支給スルノ制ヲ設ケラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔中村清造君登壇〕

○中村清造君 私ハ只今上程セラレマシタル建議案ニ付キマシテ極テ簡單ニ提出ノ理由ヲ説明致シタイト思ヒマス、諸官衙ニ於キマシテ、其事務ヲ執行スル上ニ於キマシテ、雇員並ニ備員ガ必要デアアルト云フコトハ、其國庫支辨ニ依ル者ノミニ付キマシテモ、二十萬一千人ト云フ多數デアリマス、更ニ之ヲ縣郡市町村ト云フ如キモノニ至ルマデ、精密ニ調査シマシタナラバ、夥シキ數ヲ示スコトデアラウト思ヒマス、現ニ我が衆議院内ニ於キマシテモ、ソレ等ノ人々ガ命ゼラレタル所ノ任務ノ下ニ盛ニ活動シツ、アルノヲ見ルノデアリマス、是等ノ人々ト云フモノハ所謂給料生活社會ニ於キマシテ最モ同情スベキ所ノ下級ニ屬スル人々ト私ハ思フノデゴザイマス、殊二十年、或ハ十五年ト云フ長キ歲月ニ互テ、同

地方ニ於テハ往々滑稽ノ事態ヲ見ルコトアリ之ヲ要スルニ我國ノ火災消防行政ハ歐米諸國ノ夫レニ比シ多ク遜色ト缺陷アリト謂フベシ政府ハ速ニ火災防止局トモイフベキ特別機關ヲ設置シテ全國ノ火災行政ヲ統一シ之ヲ改善シテ國民ノ罹災ヲ減退スル方今ノ急務ナリト信ズ

地方ニ於テハ往々滑稽ノ事態ヲ見ルコトアリ之ヲ要スルニ我國ノ火災消防行政ハ歐米諸國ノ夫レニ比シ多ク遜色ト缺陷アリト謂フベシ政府ハ速ニ火災防止局トモイフベキ特別機關ヲ設置シテ全國ノ火災行政ヲ統一シ之ヲ改善シテ國民ノ罹災ヲ減退スル方今ノ急務ナリト信ズ

○鈴木錠藏君 本案ハ清瀨一郎君外一名提案、治安警察法中改正法律案、外八件ノ委員ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三十、國庫支辨ニ依ル雇員備人ニ退職手當支給ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、中村清造君

第三十 國庫支辨ニ依ル雇員備人退職手當支給ニ關スル建議案

案(中村清造君外二名提出)

國庫支辨ニ依ル雇員備人ニ退職手當支給ニ關スル建議案

恩給法ノ精神ニ則リ國庫支辨ニ依ル雇員備人ニシテ勤續年限十年以上ノ者退職セムトスルトキハ退職手當トシテ現俸給ノ月額六箇月分以上ヲ支給スルノ制ヲ設ケラレムコトヲ望ム

右建議ス

〔中村清造君登壇〕

○中村清造君 私ハ只今上程セラレマシタル建議案ニ付キマシテ極テ簡單ニ提出ノ理由ヲ説明致シタイト思ヒマス、諸官衙ニ於キマシテ、其事務ヲ執行スル上ニ於キマシテ、雇員並ニ備員ガ必要デアアルト云フコトハ、其國庫支辨ニ依ル者ノミニ付キマシテモ、二十萬一千人ト云フ多數デアリマス、更ニ之ヲ縣郡市町村ト云フ如キモノニ至ルマデ、精密ニ調査シマシタナラバ、夥シキ數ヲ示スコトデアラウト思ヒマス、現ニ我が衆議院内ニ於キマシテモ、ソレ等ノ人々ガ命ゼラレタル所ノ任務ノ下ニ盛ニ活動シツ、アルノヲ見ルノデアリマス、是等ノ人々ト云フモノハ所謂給料生活社會ニ於キマシテ最モ同情スベキ所ノ下級ニ屬スル人々ト私ハ思フノデゴザイマス、殊二十年、或ハ十五年ト云フ長キ歲月ニ互テ、同

地方ニ於テハ往々滑稽ノ事態ヲ見ルコトアリ之ヲ要スルニ我國ノ火災消防行政ハ歐米諸國ノ夫レニ比シ多ク遜色ト缺陷アリト謂フベシ政府ハ速ニ火災防止局トモイフベキ特別機關ヲ設置シテ全國ノ火災行政ヲ統一シ之ヲ改善シテ國民ノ罹災ヲ減退スル方今ノ急務ナリト信ズ

一役所ニ勤績シテ居ル人々ニ至テハ、眞ニ敬意ヲ表セネバ  
ナラヌト思フノデゴザイマス、然ルニ是等ノ人々ニ對シテ國家  
ガ何モ物質的ノ恩惠ヲ與ヘテ居ナイト云フコトハ、海ニ氣ノ  
毒ニ思ハル、ノデゴザイマス、然ルニ近時二三ノ役所ニ於キ  
マシテ、或ハ二十五年、或ハ五十年ト云フ如キ記念ノ祝賀  
會ノ際ニハ、多少ノ慰勞金ヲソレ等ノ勤績者ニハ與ヘラレ  
タト云フコトヲ聞クノデゴザイマスガ、是ハ海ニ結構ナ事デゴ  
ザイマス、併シ之ガ平常ノ場合ニ於キマシテ、ソレ等勤績者  
ガ退職スルト云フ場合ニ於テハ、毫モ之ヲ要求スルノ權  
利ガ認メテナイノデゴザイマス、是ハ海ニ私ハ國家トシテ實ニ  
見通スベカラザル所ノ事實デアルト思フノデゴザイマス、一  
體我國ノ制度ヲ見マスト云フト、上ニ厚クシテ下ニ薄イト  
云フコトガ、殆ド傳統的ニナリテハ居ナイカト思フノデアリマ  
ス、彼ノ恩給法ノ如キモ在官當時ニ於キマシテ、多少ノ餘  
裕ヲ生ズル位ノ俸給ヲ戴イテ居ル人ハ、其罷メタル後ニ於  
キマシテハ復タ頗ル多イ所ノ恩給ヲ取ルノデゴザイマスガ之  
ニ反シテ在職ノ時ニ漸ク生活ヲ支ヘルコトモ出來ナイ俸給  
ヲ戴イテ居ル者ガ、罷メタル後ニハ海ニ貧弱ナル所ノ恩給ニ  
甘ゼネバナラヌト云フ状態デアリマス、ソレハ扱措キマシテ雇  
員備員ニ至テハ、全クソレ等ヲ要求スルノ權ノ無イト云フ  
コトハ、實ニ憫ムベキノ次第デアルト思フノデゴザイマス、之  
ヲ一家ノ私事ニ見マシテモ、永ク其家ニ忠勤ヲシテ居ル者  
ハ、男子デアルト女子デアルトヲ問ハズ、ソレ等ノ者ガ御暇ヲ  
取ルトキニハ、必ヤ相當ノ暇金ヲ遣ハサネバナラヌ、即チ或ハ  
商賣ノ元金トシテ發ラカ與ヘルトカ、或ハ仕立料トシテ何  
程カ與ヘルト云フコトハ、殆ド是ハ一般ノ二行ハレテ居ルノ  
デゴザイマス、又商店ヤ其他工場ノ如キモ、ソレ等ノ人ガ退  
ク場合ニハ相當ノ物資ヲ與ヘルトカ、或ハ暖簾ヲ分ケルトカ  
支店ヲ出サシムルト云フ事實ガ行ハレテ居ルニ拘ラズ、獨リ  
國家ガ十年、十五年ノ雇員備員ト云フ如キ、最モ同情スベ  
キ階級ノ者ガ其職ヲ退クニ當リテ、何等モ與ヘナイト云フコ  
トハ、私ハ是ハ今日ノ時代ニ伴ハザル所ノ不祥事デアルト考  
ヘルノデゴザイマス、故ニ政府ハ速ニ是等ノ者ヲ救済スルノ  
途ヲ講ジテ獨リ政府ニ限ラズ、政府ハ即チ其範ヲ示シテ之  
ヲ縣郡ナリ市町村ナリノ雇員備員ナリニ及ボシタイト私ハ  
考ヘルノデゴザイマス、ドウカ滿場ノ賛成ヲ得マシテ、此建議  
案ガ通過シテ、政府ガ同意セラレムコトヲ希望スル者デゴザ  
イマス(拍手)

○鈴木錠藏君 本案ハ永屋茂君外二名提出、巡查看守

隱退料及遺族扶幼料法中改正法律案、外七件ノ委員ニ  
併セテ付託セラレムコトヲ望ミマス  
〔贊成〕下呼フ者アリ  
○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト  
認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三十一、花柳  
病豫防法制定ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、大林森  
次郎君

第三十一 花柳病豫防法制定ニ關スル建  
議案(大林森次郎君外九名提  
出)  
花柳病豫防法制定ニ關スル建議案  
花柳病豫防法制定ニ關スル建議  
政府ハ本邦ニ於ケル花柳病蔓延ノ現狀ニ鑑ミ適切ナル  
本病豫防法ヲ制定公布セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

○大林森次郎君 只今上程サレマシタル案ニ付キマシテ、  
提案ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、輒近世界ニ於テ民族の  
競争ハ益、其度ヲ加ヘ來リマシテ、將來ノ國家ハ身體及精  
神ノ健全ナル國民ヲ基礎トスルニアラザレバ、能ク其獨立ヲ  
支持スルコトノ出來ナイト云フコトハ申スマデモナイコト、  
存ジマス、故ニ歐米先進國ニアリマシテハ、現代人類ノ三大  
勁敵ト致シテ居ル花柳病、結核及酒醜ニ向ヒマシテ、此害  
毒ノ豫防制遏ニ努力シテ居ル次第デアリマス、就中花柳病  
ノ豫防制遏ハ國民保健ノ上及人類幸福ノ大綱カラ見マシ  
テ、最モ緊要ナル重大問題ト存ジマス、即チ此花柳病毒ハ  
番ニ患者ノ身體ヲ虛弱ナラシムルダケデハナク、幾多ノ恐ル  
ベキ精神病ノ主因トナリ、又避妊ノ原因トナリマス、更ニ胎  
兒ニ遺傳致シマシテ流産デアルトカ、早産死産夭死ヲ招キ、  
若クハ痴呆、低能、聾アルトカ、啞デアルトカ、盲目デアルト  
カヲ産ミマシテ、民智ノ發達ニ禍シ、人口ノ繁殖ヲ妨ゲマシ  
テ、即チ國家衰亡ノ禍根ヲ貽スモノデアリマス、而シテ本邦  
ニ於ケル花柳病蔓延ノ状態ハドウカト申シマス、日清日  
露ノ兩戰役ヲ經マシテ本病ハ流行シツ、アリマシタガ、更ニ  
最近歐洲ノ大戦亂ニ當リマシテ、各國ノ出征軍隊間ニ於  
テ花柳病ノ旺盛ヲ極メマシテ、且戰後人心ノ頹廢ニ依リマ  
シテ、一層患者ノ激増致シタデアリマス、我國ニ於キマシ  
テモ亦其餘波ヲ受ケマシテ、國民ノ各階級ヲ通ジテ深ク此

病氣ガ侵入シテ、今ヤ驚クベキ現況ニ在ルコトハ、茲ニ全國  
國民全般ニ互リマシタル確ナル統計デアリマセヌケレドモ、  
毎年行フ所ノ徵兵検査並ニ製ニ内務省衛生局保健課ニ  
於テ、全國ノ主ナル病院及醫師ニ付テ調査セラレマシタル  
成績等ヨリ見マシテ、非常ナル多數ノ患者ノ有ルコトハ明  
ナ事實デアリマス、尙ホ今日ノ状態ノ儘ニ過去リマシレバ、  
此患者ハ將來益々蔓延スルト云フコトハ、疑ナキ次第デアリ  
マス、花柳病ノ豫防制遏ニ付キマシテ、徹底的ニ其效果ヲ  
期待シマスルノニハ、勿論國民ノ自覺ニ俟チマスコトガ最上  
ノ策デアルト云フコトハ信ジマスガ、由來我國ハ一般ニ衛生  
思想ニ幼稚デアリマシテ、殊ニ性ノ衛生ニ關スル點ハ極テ  
低イノデアリマス、而モ性ノ道德ハ大ニ荒廢サレテ居ル今日  
之ガ知識ノ普及及發達尙ホ其道德過涵養、即チ性ニ對スル  
教育ノ必要ト云フコトハ、最早論議スル餘地ハアリマセヌケ  
レドモ、其自體ガ概ネ專攻ニ互リ、内容機微ノ點ニ觸ル、  
等ノ之ガ實行ノ容易ナラザルコトハ明カデアリマスルガ、ソレ  
ガ爲ニ何等此點ニ向テ施サレテ居ラヌト云フコトハ、是ハ  
教育上ニ取リマシテモ一大缺點デアルト信ジマスルガ、政府  
ハ結核並ニ傳染ノ機會少キ所ノ癩病トカ、尙ホ其害ノ甚シ  
カラザル「トラホーム」ニ對シテハ、特別ノ法制ノ下ニ取締ガ  
行ハレテ居ルガ、獨リ此花柳病ニ對シマシテ、未ダ豫防法ノ  
制定サレテ居ラヌト云フコトハ、甚ダ遺憾トスル所デアリマ  
ス、今ヤ民間ニ於テモ財團法人日本性病豫防協會ナルモ  
ノガ成立サレテ、花柳病ノ蔓延防止及治療ニ關シマシテ、幾  
多ノ事業ヲ開始シテ居リマスルガ、此際ニ花柳病ニ對スル  
適當ノ法制ヲ立テマシテ、此恐ルベキ國民病ヲ官民一致協  
力致シマシテ豫防制遏スルコトハ、ドウシテモ國民ノ義務ト  
シテ致サネバナラヌト信ジマス、之ガ即チ本案ヲ提出致シマ  
シテ趣意デアリマス、ドウカ御賛成ヲ願ヒマス

○鈴木錠藏君 本案ハ伊藤廣幾君提出ノ植物性病理  
研究所設置ニ關スル建議案、外三件ノ委員ニ併セテ付託  
セラレムコトヲ望ミマス  
〔贊成〕異議ナシ「下呼フ者アリ」  
○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ガナイ  
ト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三十二、南  
千住驛淺草橋間高架鐵道敷設ニ關スル建議案ヲ議題ト  
致シマス、鈴木陸君

官報號外 大正十一年三月十二日 衆議院議事速記第二十七號 花柳病豫防法制定ニ關スル建議案

第三十二 南千住驛淺草橋間高架鐵道敷設ニ關スル建議案(鈴木隆君 外七名提出)

南千住驛淺草橋間高架鐵道敷設ニ關スル建議案 南千住驛淺草橋間高架鐵道敷設ニ關スル建議案 南千住驛ハ帝都ヨリ關東東北海岸方面ニ通スル要所 ナリト雖近年帝都東北部ノ經濟發達ノ顯著ナルト共ニ 淺草區ノ中心タル淺草橋迄高架鐵道ヲ敷設シテ交通 ノ便益ヲ完セムコトヲ望ム 右建議ス

〔鈴木隆君登壇〕

○鈴木隆君 本議題ハ南千住淺草橋間ニ高架鐵道ヲ敷 設シテ、萬世橋カラ本所兩國橋驛ニ通スル高架鐵道ニ連 絡セシメント欲スルモノデアリマス、近年鐵道ノ延長ハ年々 數百哩ノ發達ヲ遂ゲテ居ルノデアリマスケレドモ、之ガ多ク ハ地方ニ延長サル、モノガ其率多クシテ、都會ニ發達延長 セラレテ居ルト云フコトハ至テ少イヤウニ考ヘルノデアリマス デ東北振興策ナド、云フコトガ隨分唱導セラレタルモノデア リマス結果トシテ、大分發達ハサレテ居リマスケレドモ、 帝都ト東北トノ關係ヲ見マス、遺憾ナガラ昨日ノ博覽會 ノヤウナ氣味ガチヨトアル(拍手)昨日ノ博覽會ハ御承知ノ 通り、入口ガ一ツデアリマシタカラ大分混雜シタケレドモ、免 二角ドウヤラ斯ウヤラ這入ッ、所ガ彼ノ降雨ノ爲ニ出口ガ 一ツデアルト云フ爲ニ、意外ニモ不博ト云フヤウナ名前ヲ 冠セラレタデアリマスガ、東北ノ富源ヲ開發シ物資ノ増殖 ヲ來スニハ相違アリマセヌガ、此雜沓セル旅客ハ、輻輳セル所 ノ物資ノ吞吐口トシテ、單ニ上野驛ニ秋葉ノ原ト云フノニ 過ギヌノデアリマス、南千住驛ハ元來淺草ヲ通ジテ東北ニ 通ズル所ノ街路ノ主ナルモノデアッタデアリマスケレドモ、 此南千住驛ノミデハ、東北海岸線ニ通ズル所ノ停車場トシ テ、貨物ニ於テハ稍、見ルベキ成績ヲ擧ゲテ居リマスケレド モ、旅客ノ降乗停留場トシテハ、甚ダ物足りヌノデアリマス、 申ス迄モナク帝都ノ盛り場トシテハ、淺草ヲ第一ニ推サナケ レバナラスノデアリマス、彼ノ市内停留場ノ田原町及雷門 ガ、東京ニ於テ第一ノ降乗客ノ多イト云フコトニ依テモ、證 據立テラレテ居ルノデアリマスガ、試ニ此淺草附近ノ人及 本所附近ノ人、換言スレバ帝都ノ東北部ノ方ガ横濱ニ至 リ、或ハ其他東海道ノ地方ニ達セシガ爲ニ、品川迄電車ヲ 利用シマスルト一時間半モ掛ル、ソレカラ先キノ横濱迄ハ

僅ニ四十分餘ヲ達スルト云フヤウナ結果デアリマスカラシ テ、市ノ交通ノミデアツクナラバ、市當局者ヲ責メルト云フコ トモ宜カラウケレドモ、帝都ト東北、帝都東北部ト東海並ニ 本州西海部ニ達スルト云フ事柄ニ至リマスルト云フト、甚 ダ國家トシテ物足ラヌ感ガアルノデアリマス、斯様ナ譯デア リマスカラシテ、先刻一寸申述ベマシタ通り、東北振興策ナ ドニ付テモ、既ニ其一步ヲ誤ラレテ居ルヤウナ感ガアルノデ アリマスカラシテ、是非共南千住驛カラ淺草橋ニ至ル間ニ 高架鐵道ヲ敷設シテ、萬世橋ヨリ兩國ニ至ル所ノ線路ニ合 シマシテ、總テノ方面ニ通ズル所ノ發展ヲ促シ、交通ノ完成 ヲ希望スルモノデアリマス、尙ホ之ニ付テ一言申述ベマスル ノハ、此最近ニ起工セラレマシタ所ノ地下鐵道ノ如キモ、東 京ノ東北部即チ淺草カラ上野ニ廻リマシテ、品川ニ行クト 云フヤウナ順ニ、起工セラレテ居ルノデアリマスガ、總テノ交 通機關ガ東北部ノ工業地デアアル所ノ本所千住ナゾヲ、決シ テ度外視シテハ居ラヌノデアリマス、單リ國有鐵道ニ於ケル 所ノ南千住驛ガ餘リニ僻遠デアアル爲ニ、東北部ノ交通ヲシ テ十分ナラシメテ居ルト云フコトガ出來ナイノデアリマスガ ラシテ、經費ハ固ヨリ多大デアリマセウケレドモ、併ナガラ地 下鐵道モ儲カルト云フ位デアリマスカラシテ、高架鐵道ヲ 敷設シタカラト申シマシテモ、政府ハ決シテ損ハ無イノデアリ マス、ソレデアリマスカラシテ、目下帝都ト東北トノ交通機 關ノ關係ガ、九俣ノ功ヲ一簣ニ缺イテ居ルト云フヤウナ憾 ガアルノデアリマスカラシテ、是非共此事ノ貫徹ノ爲ニ、諸 君ノ御賛成ヲ仰グ次第デアリマス(拍手)

○鈴木錠藏君 本案ハ植場平君外一名提出、片町長尾 間電力鐵道延長ニ關スル建議案、外十四件ノ委員ニ併セ テ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕ト呼ブ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト 認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三十三、大 崎松田間鐵道速成ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、小 鹽八郎右衛門君

第三十三 大崎松田間鐵道速成ニ關スル 建議案(森格君外六名提出)

大崎松田間鐵道速成ニ關スル建議案 大崎松田間鐵道速成ニ關スル建議案 東京府大崎驛(山手線)ヲ起點トシ長津田ヲ經テ神奈

川縣松田驛(東海道本線)ニ至ル鐵道敷設ハ既ニ本院 ニ於テ決議シタル鐵道敷設法ノ豫定線ニ編入サレタル 重要ノ路線ニ屬シ沿線ニハ必然的ニ膨脹シ行ク東京橫 濱兩都市ノ住宅區トシテ風光ノ佳ナル多摩川畔ノ平地 アリ特ニ神奈川縣厚木町伊勢原町秦野町等ノ物資豐 富ニシテ古來ヨリ商取引ノ中心トシテ頗ル殷賑ナル市 街地アリ本鐵道敷設後ノ鐵道經濟ハ確ニ既設ノ各線 ニ優レモノアルヘク且東海道鐵道本線ニ比シ哩數ニ於 テ相當ノ短縮ヲ計リ得ル大ナル利アリ政府ハ速ニ方法 ヲ講シ本線ノ敷設ニ著手セラレムコトヲ望ム 右建議ス

〔小鹽八郎右衛門君登壇〕

○小鹽八郎右衛門君 只今日程ニ上リマシタ大崎松田 間鐵道速成ニ關スル建議案ノ要旨ヲ簡單ニ御説明申上 ゲマス、本鐵道ハ東京府大崎ヲ起點トシマシテ、長津田ヲ 經テ神奈川縣ノ中央ヲ橫斷シマシテ、松田ニ達スル鐵道デア リマシテ、其敷設ノ速成ヲ願ヒタイト云フ趣意デアリマス、 元來本線ハ既ニ本院決議ニナリマシタ鐵道網ノ豫定線 ノ重要ノ線路ニナレテ居リマス次第デアリマス、ハ神奈川 縣ノ中央ヲ橫斷シマシテ松田ニ達シマスル四十五哩間ニ 敷設ニナリマス重要ナル線路デアリマシテ、此線路ガ速成致 シタ曉ニハ、地方民ノ便利ナル事ハ勿論、國家ノ産業ノ發 達ニ資スルコトハ甚大ナコトダラウト信ジマスガ故ニ、提 出致シマシタヤウナ次第デアリマス、ドウゾ御審議ノ上ニ御 賛成下サレンコトヲ願ヒマス

〔贊成〕ト呼ブ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト 認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三十四、 木會川外二川架橋速成ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス 加藤久米四郎君

第三十四 木會川外二川架橋速成ニ關スル 建議案(加藤久米四郎君外 二名提出)

木會川外二川架橋速成ニ關スル建議案 木會川外二川架橋速成ニ關スル建議案 二重愛知兩縣ノ縣界ヲ流ルル木會川及三重縣内ヲ流

ルル掛斐、長良ノ兩川中舊東海道ノ國道ニ當ル所ハ古  
來一ノ橋梁無ク一般通行者ハ勿論當地方民ノ交通上  
乃至地方ノ産業開發上最遺憾ニシテ之カ架橋ハ熱望  
措カサルトコナリ加之三重縣ノ畏クモ皇大神宮ノ鎮座  
在ス所ニシテ全國ヨリ蠅集スル參拜者ハ年中陸續トシ  
テ斷ユルコトナク名古屋ヨリ山田ニ至ル鐵路一線ノミ  
テハ之ニ對應スルコト能ハス又關東及關西ヲ連絡スル  
陸路ハ舊中山道一線ノミニシテ之亦我カ國中央部ノ交  
通上洵ニ寒心スヘキコトニ屬ス之ヲ國防ノ上ヨリ見ルモ  
今後ノ交通政策ハ自働車運輸漸次旺盛トナルニ於テ  
前記三川ノ架橋ハ速成ヲ要スルコト明白ナリ依テ政府  
ハ速ニ其ノ計ヲ立テラレムコトヲ望ム

右建議ス

○加藤久米四郎君 簡單デアリマスカラ、自席ヨリ發言ヲ  
御許ヲ願ヒマス、本建議案ノ趣旨ハ、案ソレ自體極テ簡單  
明瞭デアリマスカラ、委員會ニ移シテ審査セラレンコトヲ希  
望致シマス

〔贊成〕贊成〔下呼フ者アリ〕

○鈴木錠藏君 本案ハ前田米藏君外九名提出、多摩川  
改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案、外三件  
ノ委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成〔下呼フ者アリ〕

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト  
認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三十五、宮  
河内各川改修國庫補助ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、  
岡順次君

第三十五

宮河内各川改修國庫補助ニ關  
スル建議案(岡順次君外三名  
提出)

宮河内各川改修國庫補助ニ關スル建議案

宮河内各川改修國庫補助ニ關スル建議案

德島縣下宮河内各川ハ頻年河水ノ氾濫激甚ニシテ人  
畜ノ死傷土地家屋ノ被害多大ナリ是レ速ニ之カ防備ノ  
改良工事ヲ施行スルノ極メテ緊急切要ナルヲ認ム仍テ  
政府ハ宜シク國庫ノ補助ヲ以テ改修ノ計ヲ立テラレムコ  
トヲ望ム

右建議ス

○岡順次君 是亦頗ル簡單デアリマスカラ、此處ヨリ發言  
ヲ御許ヲ願ヒマス、本案ハ第四十三議會並ニ第四十四議  
會ニ於キマシテ、決議可決ニ相成タ案デアリマス、其理由  
ハ速記録ニ掲載スルコトヲ御許可ヲ願ヒマス、希クハ關係  
住民ノ困厄ヲ救済シ、國土ノ保安ヲ全ウスル上ニ於テ、御

贊成アラント願ヒマス

(參照)

宮河内各川改修費國庫補助ニ關スル建議案說明  
此宮河内各川ハ吉野川ノ支流デアリマシテ其本流並ニ  
支流ヲ合算致シマス約二十里デアリマス然ルニ此河川  
ノ狀態ガ非常ニ他ノ河川ト異リマス所ハ上流ニ於テ其  
幅員ガ廣クアリマシテ下流ニ至ルニ從ヒマシテ益其幅員  
ヲ狹メラレテ居リマス即チ上流ニ於テハ百數十間ノ河幅  
ヲ有シテ居リマスルガ下流ニ至ルニ從ヒ益其幅員ヲ減少  
シ吉野川ニ流入スル近傍ニ至リマスル僅ニ五六間ニ過  
ギナイト云フ有様デアリマス而シテ其附近一帶ニ低地デ  
アリマスガ故ニ其排水モ又頗ル不良デアリマス此故ニ暴  
雨到ル毎ニ洪水ガ横溢氾濫ヲ極メルノミナラズ浸水又  
實ニ數日ニ達スルノデアリマス而シテ其回数ニ於キマシ  
テモ一年ニ數回ハ必ズアルノデアリマス之ニ由テ農産物  
ノ被害ハ申ス迄モナク飲料水ノ缺乏ヲ來タシ衛生上頗  
ル寒心ニ堪ヘザル狀態ヲ來タシ實ニ憫ムベキ有様デアリ  
マス故ニ此沿岸住民ハ百年前即チ藩政時代ヨリモ此問  
題ヲ提唱シテ休マナイデアリマスガ今日迄其機會ヲ得  
ナカト事ハ誠ニ遺憾ト致シテ居ル次第デアリマス願クバ  
此住民ノ不幸ニ同情ヲ寄セラレ此ノ河川ノ改修ヲ國費  
ヲ以テ補助セラレマシテ一日モ速ニ其改修ニ目的ヲ達ス  
ルニ至リマスコトヲ希望スルノデアリマスドウカ御賛成  
ヲ願ヒマス

〔贊成〕贊成〔下呼フ者アリ〕

○鈴木錠藏君 本案ハ前田米藏君外九名提出、多摩川  
改修費及水源涵養費國庫支辨ニ關スル建議案外四件ノ  
委員ニ併セテ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成〔下呼フ者アリ〕

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト  
認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三十六、市  
町村立小學校教員加俸令改正ニ關スル建議案ヲ議題ト  
致シマス、野村勘左衛門君

第三十六

市町村立小學校教員加俸令改  
正ニ關スル建議案(野村勘左  
衛門君外四名提出)

市町村立小學校教員加俸令改正ニ關スル建議案

市町村立小學校教員加俸令改正ニ關スル建議案  
市町村立小學校教員加俸令改正ニ關スル建議案  
市町村立小學校教員加俸令改正ニ關スル建議案  
市町村立小學校教員加俸令改正ニ關スル建議案

十一日勅令第三百三十三號ヲ以テ公布セラレ爾來數回  
ニ互リテ改正ヲ加ヘラレタリト雖時勢ノ進運ニ鑑ミ初等  
教育ノ振興ヲ圖リ且他ノ公立學校教員ノ年功加俸ト  
ノ均衡ヲ保ツ上ニ於テ遺憾ノ點渺カラス依テ左記ノ趣  
旨ニ據リ市町村立小學校教員加俸令ニ改正ヲ加ヘラ  
レムコトヲ望ム

一 市町村立小學校教員ニシテ五年以上勤続シタル者  
ニハ凡テ年功加俸ヲ給シ勤続五年ヲ加フル毎ニ一  
定ノ増額ヲ行フコト

二 年功加俸ノ額ヲ増加シテ公立學校職員ノ年功加  
俸令ニ規定スルモノト均衡ヲ保タシムルコト

三 勤続年數ハ之ヲ全國通算シ且師範學校等ノ外尙  
他ノ公立中等學校以下ノ學校ノ教職ニ從事シタル  
年數ヲモ相互通算スルコト

右建議ス

〔野村勘左衛門君登壇〕

○野村勘左衛門君 成ベク簡單ニ提案ノ理由ヲ申述ベ  
マス、御承知ノ通り此市町村立小學校教員加俸令ハ、明  
治三十三年三月三十一日勅令ヲ以テ發布セラレマシテ、其  
後三回改正ヲ加ヘラレタモノデアリマス、大正九年十月二  
十八日ニ公立學校職員年功加俸令ト云フモノガ發布ニナ  
リマシタ、之ト對照シマシテ甚ダ均衡ヲ失スルノミデナク、今  
日カラ見マス其規定ニ不備ヲ認ムル點ガアルノデアリマス、  
故ニ此勅令ヲ改正セラレタイト云フノデアリマシテ、三箇條  
アルノデアリマス、其第一箇條ニハ三ツノ事柄ガアリマス、ソ  
レデ現行法ニ於キマシテハ、小學校教員ガ年功加俸ヲ受ケ  
マスルニ、五年以上同一府縣内ニ勤続シマシテ、地方長官  
ニ於テ成績佳良ト認メタル者ニ給セラレルノデアリマス、第  
一ニ同一府縣内ニ居住スルト云フコトデアリマスガ、是ハ元  
ハ府縣ノ師範學校ヲ卒業致シマシタ者ニ對シテ、先ヅ府縣  
限リノ教員免許狀ヲ渡サレ、然ル後全國一般ノ普通免許狀  
ト云フモノヲ渡サレマシタガ、今日ニ於キマシテハ府縣ノ小  
學校ノ教員ノ免許狀ヲ受ケレバ、全國共通トナテ居ルノデ  
アリマス、此年功加俸資金モ半バ國庫ヨリ——詳シク申述  
ベマスト半バニ至ラヌヤウナ虞モアリマスガ、大體ニ於テ半バ  
地方ヨリ支出スルノデアリマス、是ト同様ノ性質ニ在リマス  
ル所ノ此公立學校ノ職員年功加俸令ハ、同一府縣内ト云  
フ制限ガアリマセ、是ハ小學校ノ教員ガ教育ニ五箇年從  
事スルト云フコトガ即チ年功デアリマシテ、府縣ヲ異ニシタ  
ル故ヲ以テ給セラレナイ理由ハナイ譯ト信ズルノデアリマス、

ソレテ第一ニ於テハ此同一府縣内ニ勤務スルト云フコトヲ  
 削リタイト云フデアリマス、其次ニハ地方長官ニ於テ成績  
 佳良ト認ムル者ト云フコトガアル、之ヲ削リタイトデアリマス、  
 大體ニ於テハ今日ノ實際ニ於テ五年勤績シタル者、即チ不  
 良ニ非ザル限リハ年功加俸ヲ給セラレテ居リマス、併ナガ  
 ラ十八ニ對シテ一一人ハ省カレテ居リマス、ソレテ其省カレ  
 テ居ルヤウナ者ハ如何ナル者カト申シマス、甚ダ同情スベ  
 キ者ガ省カレノデス、終リマデ省カレノデアリマセマケ  
 レドモ、五年勤績シタル時ニマダ其詮議ニ漏レルデアリマス、  
 ソレテ此成績ニ依テ受ケル者ハ一面ニ於テ俸給ガアリマス、  
 年功加俸ハ私共ノ信ズル所デハ、五年勤績シタルカト云フ  
 ノデ必ズ給スルト云フノニ於テ其理由ガ立ツモノト思ヒマス、  
 此ノ地方長官ニ於テ成績佳良ト認メタル者トアリマスルガ  
 故ニ、假令受ケルモノニ致シマシテモ、恩惠的トナリマシテ權  
 利トハナリマセマケガ爲ニ、甚ダ不安定ノモノデアリマス、公立  
 學校職員年功加俸令ニ於テハ、即チ斯ル規定ハナク、五年  
 勤績シタル時ニハ直ニ年功加俸ヲ受ケルヤウニナッテ居リマ  
 ス、ソレテ此小學校教員ノ方モ五年勤績シタル者ニハ年功  
 加俸ヲ給スルヤウニ改正シタイトデアリマス、今一ツハ今日  
 ノ制度ニ於テハ、五年ヲ加フル毎ニ極テ僅カナル増額ヲ爲  
 スコトヲ得ルヤウニナッテ居リマスルガ、是モ公立學校職員ノ  
 年功加俸令ノ如クニ、五年ヲ加フル毎ニ一定ノ増額ヲ爲ス  
 コトニ改正シタイトデアリマス、之ガ第一箇條ノ改正ノ理由  
 デアリマス、ソレカラ其次ノ條ハ此年功加俸ノ額ノ事デアリ  
 マスルガ、公立學校職員年功加俸令ニ於テハ、或ハ師範學  
 校ノ訓導トカ、實業學校ノ助教諭ノ如キ者ハ、小學校ノ教  
 員ト殆ド同様ノモノデアリマスケレドモ、若シ其方ノ教職ニ  
 從事致シテ居リマスルト、公立學校ノ職員年功加俸令  
 ニ依リマスルガ故ニ、比較的多額ノ年功加俸ヲ受ケマスルシ、  
 小學校ノ教員ノ方ハ僅カノ年功加俸ヲ受ケルデアリマス、  
 甚ダ是ハ權衡ヲ得テ居ラナイデアリマシテ、之ヲ權衡ヲ保  
 チ得ル如ク増加セラレタイト云フデアリマス、今一ツハ前任  
 期間ノ通算ノ事デアリマス、只今ノ現令法ニ於キマシテハ、  
 道廳府縣視學、島嶼郡視學及師範學校訓導タケハ勤績  
 年數ヲ通算致シマスルケレドモ、公立學校ノ教育ニ從事シ  
 テ居ル者ハ之ヲ通算シナイデアリマス、同ジク教職ニ從事  
 シテ居ル者デアリマシテ、一ハ之ヲ通算シ、一ハ之ヲ通算シ  
 ナイデアリマス、ミナラス公立學校ノ職員年功加俸令ニ  
 於テハ、小學校ニ於ケル此加俸令ニ因リ勤績年數ハ轉ジタ

場合ニ之ヲ通算スルデアリマス、ソレ故ニ即チ公立學校カ  
 ラ小學校ニ來タ場合ニハ通算シナイ、小學校ヨリ公立學校  
 ノ方ニ轉ジタ場合ニハ通算スルコトニナリマス、甚ダ是モ不  
 權衡デアリマスガ故ニ公立學校ノ中等學校以下ノ教職ニ  
 勤績シタル年數ハ、之ヲ通算スルコトニシタイト云フデア  
 リマス、近時小學校教員ノ待遇ガ漸次良クナリツ、アルコ  
 トハ、洵ニ慶ブベキ事デアリマスルガ、併ナガラ小學校教  
 員ノ素質ヲ益、向上スルニアラザレバ、初等教育ノ振興期ス  
 ベカラス、ミナラス實ニ此國家ノ將來ニ對シテ甚ダ心ヲ寒  
 ウスベキ事ガアルコトヲ信ズルデアリマス、(ヒヤ、ヒヤ)ソレ  
 デアリマスカラシテ此年功加俸令ヲモ、現時ノ他ノ公立學  
 校職員加俸令ナド、權衡ヲ取レルヤウニ改正シテ載キタイ  
 ト云フデアリマス(拍手)

○鈴木錠藏君 本案ハ砂田重政君外二名提出、小學校  
 教員俸給國庫負擔額增加ニ關スル建議案外三件ノ委員  
 ニ併セテ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成ノ聲起ル

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ナイ  
 ト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——次ニ此際先刻  
 後廻シニナッテ居リマシタ日程第十七、軍機保護法中改正  
 法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ求  
 マス、安藤正純君

**第十七 軍機保護法中改正法律案(安藤)**

正統君外二名提出) 第一讀會

軍機保護法中改正法律案

軍機保護法中左ノ通改正ス

第一條中「重懲役ニ處シ其ノ情輕キ者ハ一等ヲ減ス」ヲ  
 「三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス」ニ改ム

第二條中「有期徒刑」ヲ「五年以上ノ懲役又ハ禁錮」ニ  
 改ム

第三條中「輕懲役」ヲ「一年以上七年以下ノ懲役又ハ  
 禁錮」ニ改ム

第四條中「一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二  
 圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス」ヲ「三年以下ノ懲役  
 若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」ニ改ム

第六條 本法ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備ヲ爲シタル者  
 ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第八條 本法ハ刑法第二編第三章外患ニ關スル罪陸  
 軍刑法第二編第一章叛亂ノ罪海軍刑法第二編第  
 一章叛亂ノ罪ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

〔安藤正純君登壇〕

○安藤正純君 簡單ニ提出ノ理由ヲ説明致シマス、現行ノ  
 軍機保護法ハ明治三十二年ニ制定セラレタモノデアリマシ  
 テ、今日ヨリ二十三年前ノ制定ニ係リマス、二十三年前ト  
 今日トハ、時勢ノ變遷ガ著シイモノ、アルコトハ申上ゲル迄  
 モアリマセマ、昔シ秘密ト云ハレタ事ハ今日秘密ノ領域ヲ脱  
 シタモノガ決シテ少クナイデアリマス、隨テ昔ノ所謂軍機  
 ト云ハレタモノガ今日必シモ軍機ト云フ部分ニハ屬シテ居  
 ラナイデアリマス、例ヘバ或ル軍港ニ於キマシテ、何万噸ノ  
 軍艦ヲ造テ、之ニ何時ノ砲ヲ何門裝置スルト云フヤウナ事  
 ハ、昔ハ勿論秘密デゴザイマシタガ今日ハ必ズシモ秘密デハ  
 アリマセマ、一例致シマスレバ海軍ニ海軍令規上云フモノガ  
 ゴザイマス、是ハ海軍ノ令規ヲ前シタモノニ過ギナイデアリ  
 マスルガ、之ニ「極秘」ト云フ印ヲ捺シテアル、「極秘」ト云フ  
 印ヲ捺シテアルガ爲ニ是ガ秘密トセラレマシテ、之ニ累ヒセ  
 ラレル者モ亦無イデアリマセマ、併ナガラ一方ニ於テハ其  
 極秘ト致シマスル事柄ヲ、或ル場合ニ於キマシテハ、市町村  
 長ヲ喚ビマシテ艦長自ラ之ヲ告示スルト云フヤウナ例ハ、今  
 日ニ於テ決シテ少クナイデアリマス、又國內ニ於キマシテ  
 軍機ノ秘密トセラレマス事ガ——軍機ノ秘密デアリマスルカ  
 ラ、國內ノ新聞ニ於テ之ヲ掲載致シマスルト直ニ之ガ刑ニ  
 處セラレマスルガ、外國ノ新聞ニ於テハ堂々ト之ガモト詳  
 シク掲載セラレテ居ルト云フヤウナ狀態ニナッテ居リマス、要  
 スルニ此軍機保護法ハ、今日ニ於キマシテハ最早時代ニ副  
 ハザル所ノ舊キ法律トナッタノデゴザイマス、既ニ舊刑法ハ明  
 治四十一年ヲ以テ改正セラレテ現行刑法トナリ、更ニ明治  
 十七年ニ制定セラレマシタ爆發物取締規則ト云フモノモ  
 亦時代ノ精神ニ副ハナイモノト致サレマシテ、大正七年ニ現  
 行ノ爆發物取締規則ニ改正セラレタノデゴザイマス、獨リ  
 取殘サレマシタノガ現行軍機保護法デゴザイマスカラ、是  
 ハ時代ノ精神ニ副フベク改正ヲ致シマシテ、苛酷ナル刑律  
 ノ下ニ律セラレテ居リマスル今日、此狀態ヲ改善致シマス  
 ルコトハ、是ハ當然ノ事ト存ズルデアリマスカラ、茲ニ本  
 改正法律案ヲ提出シタ所以デゴザイマス、ドウカ慎重御審  
 議ノ上可決アラント希望スル次第デゴザイマス(拍手)

○鈴木錠藏君 本案ハ清瀨一郎君外一名提出、治安警

察法中改正法律案外九件ノ委員ニ併セテ付託セラレシ  
トヲ望ミマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ナイ  
ト認メマス、仍テ本案ハ動議ノ如ク決シマシタ、是ニテ本日  
ノ日程ヲ議了致シマシタ——諮問事項ガアリマス、第四部  
選出豫算委員三木武吉君、第二部選出請願委員久木田  
叶君、兩君ヨリ常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、許可ス  
ルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(粕谷義三君) 御異議ナイト認メマス、仍テ是  
ハ許可致スコトニ致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補關選舉ヲ  
行ヒ御届アラシコトヲ希望致シマス、明後十三日ハ月曜日  
デアリマス、特ニ本會ヲ開キマス、議事日程ハ迫テ公報ヲ  
以テ御通知申上ゲマス、本日ハ之ニテ散會致シマス  
午後四時四十八分散會

衆議院議事速記録第二十五號中正誤

頁	段	行	誤	正
六〇二	上	二六	共副食	共ニ副食
六〇二	上	三三	支拂	支那
六〇三	中	三五	日清	日支

